班　石（温石）
燧　石
硝子石
蛇　石
○訓令甲第十一號
自今左記ノ鑛物日本坑法第三款所屬トシテ取扱ハレ候條從前許可ヲ得タル
試堀借區券此際返納セシメムシ
陶土　耐火粘土　石版石　瑪瑙　石綿　金剛砂　雲母
石膏　鹹泉
明治廿二年一月廿九日　郡役所　戸長役場
○訓令甲第百九十五號
鑛山試堀幷借區坑業人若シクハ其代理人ハ鑛山所在地ニ住居シ坑業ヲ營ム
ヘキハ勿論ニ候處或ハ其地ヲ離レ明細表進達、稅納其他ノ坑務取運方往々
延滯致候モノモ有之哉ニ相聞候條心得違無之樣豫テ其向ノ者ヘ相達シ置シ
明治廿一年十二月七日　郡役所　戸長役場

ヘシ

但代人ヲシテ坑業ヲ管理セシムルモノアルトキハ其人名所轄郡役所ヘテ屆出サシメ坑務差支無之樣處辨爲致ヘシ

○縣令甲第十號　明治廿二年二月廿五日

自今左記ノ諸願書ハ副本差出スヘシ

一　鑛山試堀借區願

二　砂金鐵採取願

以上正副三通

三　明治十八年(四月)本縣乙第三十三號布達開墾地無代下渡願

四　明治二十年(一月)縣令甲第十五號ニ屬スル官有森林山野ニ關スル諸願

五　明治十九年(十月)縣令甲第三十五號町村立私立學校建築規則ニ依リ認可ヲ請フヘキ伺書

六　墓地火葬場設置ニ關スル願書

七　獸畜死屍埋地燒場設置ニ關スル願書

以上正副二通

○告示第百九十七號　明治廿二年六月二十日

諸鑛山試堀借區等ノ願書ハ明治九年(十月)工部省第十八號布達ニ依リ願書圖面共正副二通差出スヘキ成規ニ候處左ノ願書ニ限リ副本差出スニ及ハス

一砂鉄ノ墟稼願

一砂金鉄等採取人及墟稼人相續加除名並讓受渡願

一試堀延期願及試堀人相續並除名願

一借區外坑道願

○縣令甲第四十九號　明治二十年三月廿四日

陸運營業取締規則左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

但明治十八年乙第五十六號同第五十七號同第五十八號同第八十一號同第八十二號達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

陸運營業取締規則

第一條　陸運營業トハ物貨ノ陸運ヲ請負ヒ又ハ運送人ヲ備ヘ繼立ヲナシ營業スル者ヲ云フ

第二條　陸運營業ヲ別テ左ノ二種トス

一　物貨請負

二　物貨繼立

第三條　前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ但此場合ニ於テハ左ノ各項ニ據リ願書ニ調書ヲ添付スヘシ

一　營業所ノ略圖（町村字及番地）

二　運送路線ノ略圖

三　財產調書（所有ノ地所建物公債証書諸株券ノ類）

四　營業上ノ履歷書

第四條　強盜竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ陸運營業者及所屬運送人タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第五條　物貨繼立營業者ハ雛形ニ據リ証票ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ所屬運送人ニ携帶セシムヘシ但廢業シタルモノアルトキハ五日以內ニ証票ノ消印ヲ乞フヘシ

第六條　所屬運送人改氏名轉居等ニテ証票ニ異動ヲ生シタルトキハ更ニ書換檢印ヲ受クヘシ但シ本文ノ場合ニ於テハ前ニ受ケタル証票ノ消印ヲ乞フヘシ

第七條　証票ハ何人ニテモ見シテヲ求ムルトキハ之ヲ示スヘシ

第八條　証票ハ貸借スルヲ許サス

第九條　陸運營業者ハ左ノ事項ニ據リ各業毎ニ規程ヲ設ケ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ但規程ヲ改正又ハ加除シタルトキモ亦同シ

一　托者ノ運送物受取方

二　荷受人ヘ運送濟ノ貨物渡シ方

三　保險物運送請負方
四　運送物遭難辨償方
五　運賃及保險料ノ定額
六　急送及通常遞送方
七　物貨繼立ニ關スル常備人、牛、馬、車ノ數
八　所屬運送人ニ關スル約束
前項ノ外營業上必要ノ事項
第十條　陸運營業者左ノ場合ニ於テハ五日以內ニ縣廳ニ屆出ヘシ
一　休業及廢業シタルトキ
二　改氏名轉居シタルトキ
三　營業所及運送路線ヲ變更シタルトキ
第十一條　物貨繼立營業者ハ其關係路線ノ同業者ト左ノ事項ニ據リ規約ヲナシ縣廳ノ認可ヲ受クベシ

一　物貨受ケ渡シニ關スル約束
二　物貨繼通シニ關スル約束
三　繰替賃金ニ關スル約束
前項ノ外契約上必要ノ事項
第十二條　營業所ニハ看板及左ノ事項ヲ店頭ニ掲示スヘシ
一　物貨請負所ニハ貨物取扱上ノ要領及其請負賃金保險料ノ定額
二　物貨繼立所ニハ隣地繼立所ヘノ距離請賃錢ノ定額及ヒ繼立時間常備人、牛、馬、車ノ數
前項ノ外托者ノ心得トナルヘキ事項
第十三條　凡テ運送物ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ミ又ハ延滯スヘカラス
但人夫又ハ車馬ヲ需メラルヽトキモ亦同シ
第十四條　物貨ヲ請負又ハ遞送スルニハ托者ノ望ミニ依リ損害辨償ヲ負擔スルト否トヲ別チ之ヲ取扱フヘシ

第十五條　送狀ナキ物貨ヲ請負又ハ遞送スヘカラス

但托者ノ望ニ依リ營業者之レニ代リ送狀ヲ發スルハ妨ケナシ

第十六條　運送物ヲ請取ルトキハ荷造粗糙ナルカ又ハ錠鎖封印ナク損傷アリト認ムルトキハ托者ニ改造又ハ封緘セシムヘシ

第十七條　運送中ノ物貨若シ荷造異狀又ハ物品ニ損傷アリト認ムルトキハ繼越運送人立會ヲ得テ改造又ハ之ヲ解キ檢査スルヲ得此場合ニハ其顚末ヲ詳記シ送狀ニ添付スヘシ

第十八條　前條ノ場合ニ於テ運送物損傷等アルトキハ其旨繼越地ノ營業人ニ急報シ繼越地ノ營業人ハ速ニ取調相當ノ手續ヲナスヘシ

第十九條　損傷又ハ腐敗シ易キ物品ヲ他物ト混同遞送シ又ハ藏置スヘカラス

第二十條　物貨請負營業者ハ繼立營業者ヲ經スシテ直ニ人車馬ヲ使用スヘカラス

但物貨配達等ノ爲メ常ニ使役スル人車馬ハ此限ニアラス

第廿一條　所屬運送人ハ托者ノ承諾ヲ得スシテ運送物ヲ他ノ車馬ト交換シ又ハ自宅ニ留ムヘカラス

第廿二條　陸運營業者及所屬運送人ハ定額外ノ賃錢若シクハ手數料ヲ托者ニ請求スヘカラス

第廿三條　第三條第五條第九條第十三條第十八條第廿二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第廿四條　第八條第十一條第二十條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第廿五條　第十五條第十九條第廿一條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

（雛形）

表面

第　號

○物貨運送人之証

何縣下何郡何町村

何ノ雛

竪三寸　横二寸　厚三分

檢印

裏面

○明治何年何月

何繼立所之印

方一寸

烙印

○縣令甲第五十號　明治二十年三月廿四日

陸運營業取締規則ヲ定メ明治十八年乙第五十六號同第五十七號同第五十八號同第八十一號同第八十二號達ヲ廢止候ニ付テハ旅人宿乘合馬車人力車等ノ現營業者及其營業ヲ爲サントスルモノハ當分左ノ通心得ヘシ

一　現營業者ハ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出從前ノ証票ヲ以テ引繼キ營業スルヿヲ得

二　廢業シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ツヘシ

三　新ニ營業セントスルモノハ住所氏名年齡ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出認可ヲ受クヘシ

四　旅人宿乘合馬車人力車ノ營業者ハ從前認可ヲ受ケタル組合規程ニ據リ營業スヘシ

但驛傳取締所及取締人世話人ニ關スル條項ハ此限ニアラス

○縣令甲第五十二號　明治二十年三月廿七日

本年縣令甲第四十九號附則左ノ通追加ス

附則

第一條　營業願ハ來ル四月十五日限出願スヘシ但現營業者ハ許可ヲ受クルマテ引續キ營業スルヿヲ得

第二條　營業願書ハ第一書式ニ營業所ノ略圖ハ第二雛形ニ運送路線ノ略圖ハ第三雛形ニ財産調書ハ第四書式ニ營業上ノ履歷書ハ第五號書式ニ據リ調整スヘシ

第三條　規則第五條ノ証票ハ來ル四月二十日限リ檢印ヲ受ケ携帯セザルヘカラズ

但証票料壹個ニ付金三錢以内所屬運送人ヨリ徵收スルコヲ得

第四條　一路線若クハ一地方同業者數人ノ規程ヲ以テ營業セントスルモノハ申合セ之レヲ編成シ連署認可ヲ受クルコヲ得

甲營業者ニ於テ已ニ認可ヲ受ケタル規程ニ據リ營業セントスル乙營業者ハ特ニ規程ヲ設クルニ及ハス其事由ヲ詳記シ甲營業者加印ヲ得テ認可ヲ受クヘシ

第五條　前項規程中運賃ハ一路線若クハ一地方營業者區々ナラサル樣之ヲ定ムヘシ

第六條　營業所ノ看版ハ第六雛形ニ據リ調製スヘシ

（第一書式）

陸運物貨請負（繼立）營業願

私儀陸運物貨請負（繼立）營業仕度候間御許可被成下度關係書類相添此段奉願候也

年　月　日

同府縣同國同郡區同町村何番地

族籍（寄留ナレハ本籍寄留所ト併記スヘシ以下倣之）

何　某　印

（本社アルモノハ其社長茲ニ連署スヘシ）

何郡何町村外何ケ村戸長

何　某　印

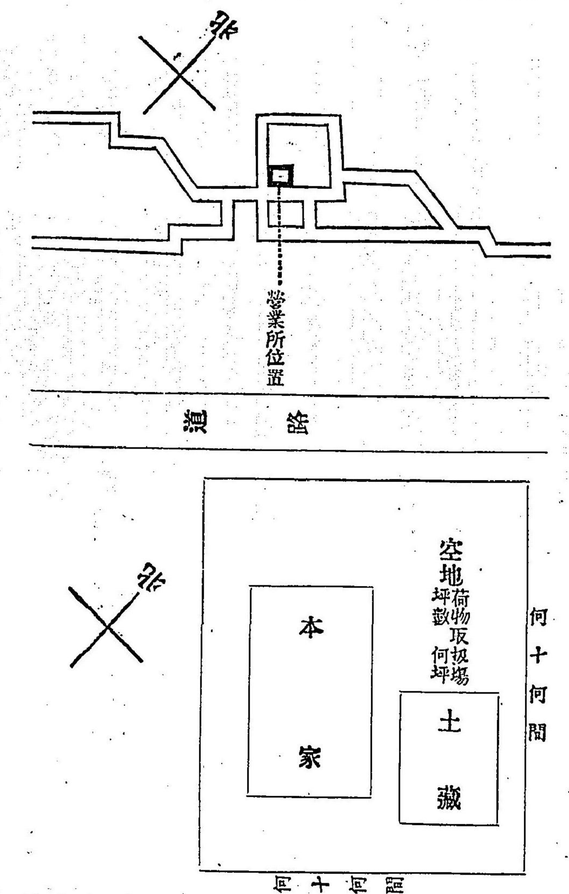
（第二雛形）市街又ハ準市街或ハ連檐接續セサル地ニ於テ營業セントスルモノハ其村ノ略圖ヲ記載スヘシ

何國何町村市街（又ハ準市街或ハ連檐接續）略圖

營業所略圖

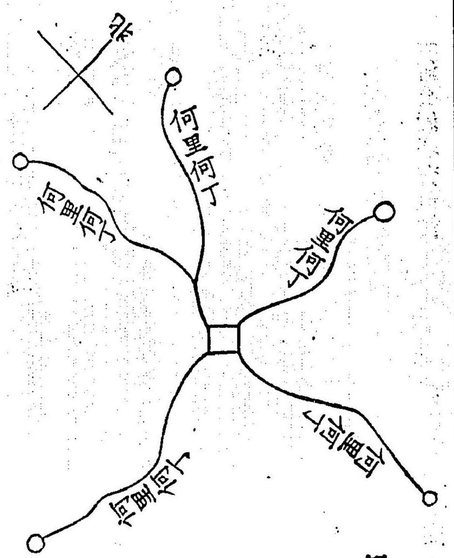
何町村字何何番地（所有家屋）（又ハ何ノ誰借家）

（第三雛形）物貨請負營業者ハ此圖面差出ニ及ハスト雖モ内國一般ノ送達ヲ請負カ又ハ何々地方ニ限リ請負フカノ類ヲ記載スヘシ



（第四書式）

財産調書



例

□ 營業スヘキ地名

○ 隣地繼立所驛村名

／ 運路

何府縣何國何郡區何町村何番地住

戸主（又ハ戸主某長次男）

何國何郡何町村

一田（畑）（宅地）何町何反何畝何歩　書入又ハ質入等ノ有無ヲ明記スヘシ

此地券面價格金何圓

此賣買價格金何圓

同

一山林（原野）同上

同

同

同

一建家何棟

此賣買價格金何圓

一何公債証書何枚

同上

同上

族籍　何　某

此額面金何圓

一何株券何枚

此券面金何圓

此賣買價格金何圓

右私所有ニ相違無之候也

年　月　日

右　何　某　印

前書ノ通相違無之候也

何郡何町村外何ケ村戸長

同上

何　某　印

（第五書式）

營業履歴書

何府縣何國何郡區何町村何番地住

戸主（又ハ戸主某長次男）

一何年何月ヨリ何年何月迄何處ニ於テ何々營業

一何年何月休業（又ハ廢業）

其他右ニ準ジ從前營業上ノ經歷ヲ記載スヘシ

右ノ通ニ御座候也

年　月　日

右　何　某　印

（第六雛形）

族籍職業　何　某

生年月日

一九八

○縣令甲第五十三號　明治二十年三月廿六日

口　陸運物貨請負（繼立所）

竪曲尺五尺
横同　一尺
厚サ同一寸

農商　鎭山運輸

地方約束郵便規則左ノ通相定メ四月一日ヨリ施行ス

地方約束郵便規則

第一條　左ニ記載スル公用郵便物ハ一管内往復ヲ限リ郵便切手ヲ貼セサルモノトス

但シ書留及別配達料ハ此限ニアラス

第一節

一縣廳
一警察署
一監獄署
一郡役所
一右廳衙ニ屬スル廳衙
一右廳衙ノ吏員郡長郡書記及雇ノ間ニ互ニ往復シ及諮向ニ達スルモノ
一縣立學校
一縣立病院
一勸業場事務所
一右縣立學校病院勸業場事務所ノ吏員

廿二年二月縣令甲第八號ヲ以テ削除

一九九

第二節

一縣會
一常置委員會
一縣會議員常置委員
一勸業通信委員

第三節

一戶長役場
一戶長及用掛

第二條　前條公用郵便物ハ郵便條例第一章第一條ニ據リ各種別ニ裝フヘシ

第三條　一廳衙又ハ一個人ニ二個以上ノ郵便物ヲ發遣セントスルトキハ各種別ニ據リ合裝スヘシ

第四條　凡テ郵便物ノ封皮又ハ帶紙ニハ一方若クハ双方ノ廳衙名或ハ官省役名及其氏名又ハ部名等ヲ明記シ表面ニ公用ノ二字ヲ朱記スヘシ

第五條　前條ノ記載方ヲ十サスシテ發遣シタルモノハ郵便條例第二章第廿二條第廿二條未納稅ノ例ニ依リ取扱フモノトス

第六條　未納郵便物ヲ請取タルトキハ先ツ未納ニ對スル稅金ヲ完納シタル後發遣者ニ該金員ヲ請求スルヲ得

第七條　此規則ニ據リ發遣シタル郵便物數及其量目ハ毎年二回（自四月至九月分ハ十月自十月至翌年三月分ハ四月）左ノ表式ニ據リ取調本縣農商課ニ報告スヘシ

但警察署監獄署戶長役場等ハ所轄廳衙ニ報告シ所轄廳衙ハ部內ノ數量ヲ統計シ本文ノ手續ヲナスヘシ

種別	個數	量目
第一種		
第三種		
第四種		

（從明治　年　月至同　年　月約束郵便個數量目調）

廿二年六月縣令甲第七十一ニテ改正アリ

二十年五月縣令甲第八十三號ニテ改正アリ

右報告候也

年　月　日

宛名

備考　量目ハ當日發遣ニ係ル郵便物ヲ各種別シ之ヲ合量シ日々帳簿ニ記載シタル量目ヲ統計スルモノトス

○訓令乙第五百十號　明治廿一年六月十四日　沿海、戸長役場、浦役場郵便物ヲ積載シタル船舶航行中難破等ニ罹リ船長又ハ代理人ヨリ該郵便物ノ送致ヲ受ケタルトキハ受領書ヲ交付シ相當保護ヲ加ヘ速ニ最寄郵便局ニ送達スヘシ

但其役場ニ於テ要シタル費用ハ當廳ヲ經由仙臺遞信管理局ニ請求スヘシ

○訓令甲第二百四十五號　明治二十年七月九日　郡役所

明治十八年八月勸第千三十三號ヲ以テ郵便集配人及ヒ其身元引受人身元證

明書ニ戸長奥書調印ノ儀相達置候處右ハ自今奥書調印ニ不及旨達方取計フヘシ

○縣令甲第百三十三號　明治二十年十二月十六日

瀨車積込荷物ノ取次ヲ爲シ營業セントスル者ハ本年縣令甲第四十九號陸運營業取締規則ニ據ルヘキモノトス

陸運營業人又ハ同會社ニシテ各所ニ支店若シハ出張所等ヲ設ケントスルトキハ其個所毎ニ同則第三條ニ據ルヘキモノトス

但甲地陸運營業人ニシテ乙地同業人ニ聯合シ該取扱所ヲ設ケントスル場合ハ同則第十條ニ據リ双方連署届出ツヘシ

○訓令甲第六十號　明治十九年八月廿五日　郡役所

客年丙第六十八號達中郵便取扱役トアルハ自今左ニ記載ノ通心得ヘシ

郵便局ニ於テハ三等局長

郵便受取所ニ於テハ郵便受取所取扱人

○訓令甲第百三十一號　明治廿一年五月卅一日　郡役所　戸長役場

郵便受取所取扱人郵便貯金預所取扱人ノ採用ニ關シ遞信省管理局長ノ照會又ハ依托アルキハ便宜處理スヘシ

○乙第七十六號　明治十八年七月一日

船燈監査規則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

但シ明治十八年(一月)乙第第二號布達ハ廢止ス

(別紙)

船燈監査規則

第一條　船燈ハ府縣廳ノ檢印ナキモノ及ヒ免許販賣所外ニ於テ販賣スルヲ許サス

第二條　船燈ハ監査員ヲ派出シ製造所販賣所及ヒ繫泊ノ船舶ニ就キ監査セシムルモノトス

第三條　繫泊ノ船舶ハ其船籍自他ニ係ラス定時毎年二回四月十月又ハ臨時監査ヲナシ

左ノ書式ノ監査證書ヲ附與スヘシ若シ不合格ノ舷燈隔板及ヒ碇泊燈ヲ所持スルカ又ハ裝置ヲ誤ルモノハ速ニ改良セシムルモノトス

但西洋形船舶檢査規則ニ據リ檢査スヘキ船舶及ヒ甲板ナキ漁舟小船等ハ此限ニアラス

第四條　監査ノ際船長又ハ海員中重立タル者ニ就テ海上衝突豫防規則中必要ト認ムル條件ヲ尋問スルコトアルヘシ

第五條　監査證書ハ第一回ヨリ第五回目ノ監査ヲ了ル迄ハ各府縣定期又ハ臨時監査ヲ受ケタル毎ニ該證書欄内ヘ加書押印ヲ受クヘシ

第六條　監査證書ハ船内見易キ場所ヘ揭ケ置クヘシ

監査證書式

船燈監査ノ證

監査回數	一回	二回	三回	四回	五回	回
監査年月日						

廳府縣監査員氏名印	船名	積石（噸）	本船定繫場名	船主本籍氏名	船頭本籍氏名	船燈種類及番號	船燈製造人氏名	舷燈白燈及隔板適否	改良之部分	記事

○勸第千六百四十五號　明治十八年十二月廿二日　菊多郡前磐城、植葉標葉、行方宇多、北會津、耶麻　郡役所

私立西洋形造船所幷造船員數等自今別紙書式ニ倣ヒ毎一年分取調翌年一月限リ當廳ヘ可届出此旨相達候事

（別紙）

西洋形造船所幷造船員數等届書式

船ノ種類	船名	噸數	馬力	製造代價		製造所位置	創立年月
汽船	何號	何噸	何馬力	何圓	何府縣華士族平民何誰	造船工長族籍氏名	何府縣華士族平民何誰	持主族籍氏名	何府縣何郡何町村何番地	何年何月
帆船										
合計	何艘	何噸	何馬力	何圓	何人		何人		何ヶ年	

備考　每一週年問造船所ノ廢置及盛衰ノ概況ヲ記スヘシ

○丙第五十號　明治十七年六月六日　郡役所

今般第十號布告ヲ以テ船舶積量測度規則及測度方法等發令ニ就キ別紙ノ通
右測度圖解其筋ヨリ交付相成候條右ニ照準可取扱此旨相達候事
（測度圖解略ス）

明治十七年六月二十日　　郡役所

○丙第五十五號

本年四月第十號布告ヲ以テ船舶積量測度規則制定相成候ニ就テハ船稅徵收ノ噸數及積石數定方左ノ通心得ヘシ

西洋形船舶ハ船免狀ノ登簿噸數ニ照シ船鑑札面ヲ改正シ其噸數ニ據リ徵稅スヘシ

船免狀ヲ下付セサル西洋形船舶及日本形積石數五十石以上ノ船舶ハ測度更正濟ノ時ヨリ船鑑札面ヲ改正シ其噸數及積石數ニ據リ徵稅スヘシ

前二項ニ由リ在來徵稅ノ噸數及積石數ニ增減ヲ生シタルトキハ其次期ヨリ更正ニ係ル稅金ヲ徵收スヘシ

○丁第六十二號

明治十七年六月十七日　　町村戶長

瀝船公稱馬力算定方法左ノ通農商務省ヨリ達相成候條此旨相達候事

農商務省第十三號　　明治十七年五月廿二日

瀝船公稱馬力算定方法左ノ通相定メ候條此旨相達候事

公稱馬力算定方法

第一　冷瀝器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ瀝筒吸鎲ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ十個ニテ除シタルモノ

但瀝筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第二　冷瀝器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ瀝筒吸鎲ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シ其得數ヲ三十個ニテ除シタルモノ

但瀝筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第三　冷瀝器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各瀝筒吸鎲ノ徑ヲ英寸

ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ十個ニテ除シタルモノ

但瀛筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第四　冷瀛器ヲ備フル機關ノ公稱馬力其各瀛筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ其得數ヲ三十個ニテ除シタルモノ

但瀛筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之レヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

（乙第二十六號　明治十九年五月十二日　郡役所　戸長役場

明治十五年（七月）丙第十三號達同十七年（六月）丙第五十一號達同年（六月）丁第五十八號達船舶員數取調樣式別紙ノ通改正ス

西洋形不登簿船舶表　六月（十二月）末ノ現數

船名	何々丸
船質	鐵又ハ木

裝帆	バルク、ブリツク、スクーナル等
檣數	何本
定繫場	何國何郡何港又ハ何町村
尺度 長	曲尺何尺
尺度 幅	同何尺
尺度 深	同何尺
製造地名	何國何郡何區何地何造船所等
製造年月	何年何月
登簿噸數	何噸
總噸數	何噸
公稱馬力	何馬力
船主氏名	何ノ誰又ハ何會社
船主族籍住地	何國何郡區何町村何番地華士族平民

風帆船ハ馬力ノ欄ニ斜線ヲ施スヘシ

日本形船舶表　六月（十二月）末ノ現數

石數區別	艘數	積石數

五十石以上	五十石（以上石數ヲ異ニスル毎ニ列記スヘシ）				
百百以上	百（同上）石	計	何艘、何艘、何艘	計	何石、何石、何石
五百石以上	五百石（同上）	計	何艘、何艘、何艘	計	何石、何石、何石
千石以上	千石（同上）	計	何艘、何艘、何艘	計	何石、何石、何石
合計					

一石數區別ノ欄ヘハ石數ヲ具ニスル毎ニ一々區別記載スヘシ

一本表ハ船稅表ノ調ニ據リ毎半期問ニ收稅シタル數ヘ其期限中收稅濟他管ヨリ轉入シタルモノヲ加ヘ又收稅濟他管ヘ轉出シタルモノ及ヒ解毀波沒等ヲ除キ六月十二月ノ現數ヲ算出スルモノトス

○訓令甲第九十八號

明治廿二年五月廿二日　郡役所　戸長役場

自今西洋形船々長運轉機關手氷火夫等每年十二月卅一日ノ現員左式ニ依リ調査シ翌年一月（町村役場ハ十五日限リ所轄郡役所ニ郡役所ハ卅一日限リ當廳ニ差出スヘシ）

但明治十八年五月丙第二十七號及丁第三十二號達ハ廢止ス

明治　年十二月三十一日調

船名	主免狀種類				
族籍氏名番號	船長以下職務	族籍氏名	給料	一ケ月雇入年月日	水夫以下職名
甲乙種般長若シクハ小形船々長免狀第　號	船長	何府縣士族平民何誰	何圓	年月日	水夫長
					何人
甲乙種一等運轉手免狀第　號	運轉手	同	同	同	舵夫
何府縣華士族平民何誰轉手免狀第　號	同	同	同	同	水夫
甲乙種二等運轉手免狀第　號	同	同	同	同	油差
何丸若クハ會社名					
甲乙種一等機關手免狀第　號	同	同	同	同	同
甲乙種二等機關手免狀第　號	同	同	同	同	同

甲乙種二等機關手若ハ小形船機關手免狀第	號
	同
	同
	同
	同
	同
	火夫
	同

以下右ニ準シ各船毎乘組人員ヲ（一時廢業又ハ休業ヲ除クノ外乘組船ノ修繕碇泊中ヲ間ハス船主ノ雇入中ニ屬スルモノハ悉皆）列記スヘシ外國人ハ氏名欄内ニ其國名ヲ記入スヘシ

○縣甲第百三十七號

明治十三年十二月廿一日

上世以來御陵墓所在未定ノ分即今其筋ニテ取調中ニ有之就テハ古墳ト相見候地ハ人民私有地タリ𪜈猥リニ發堀致間敷若シ自然風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ堀リ當リ候樣ノ次第有之候ハヽ口碑流傳ノ有無ニ拘ハラス凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ地名幷ニ近傍ノ字等ヲモ取調可申出此旨布達候事

○縣甲第百二十五號

明治十四年十月七日

各地ニ唱フル字ノ義ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚多ク土地爭訟ノ審判歷史ノ考証地誌ノ編纂等ニハ最モ要用ナルモノニ候條漫ニ改稱變更不致樣可心得此旨布達候事

但實際已ヲ得サル分ハ其時々可願出事

○乙第百十一號

明治十四年十二月廿七日

郡役所　戶長役場

飛地錯雜地編入換申牒書式ノ儀ハ十一年十一月地第二十七號ヲ以テ舊區戶長ヘ相達置候處自今右書式幷圖式別紙雛形ニ準シ取調可差出此旨相達候事

錯雜飛地編入換申牒

一反別何程

何村ヘ飛地々元　何村

内

反別何程

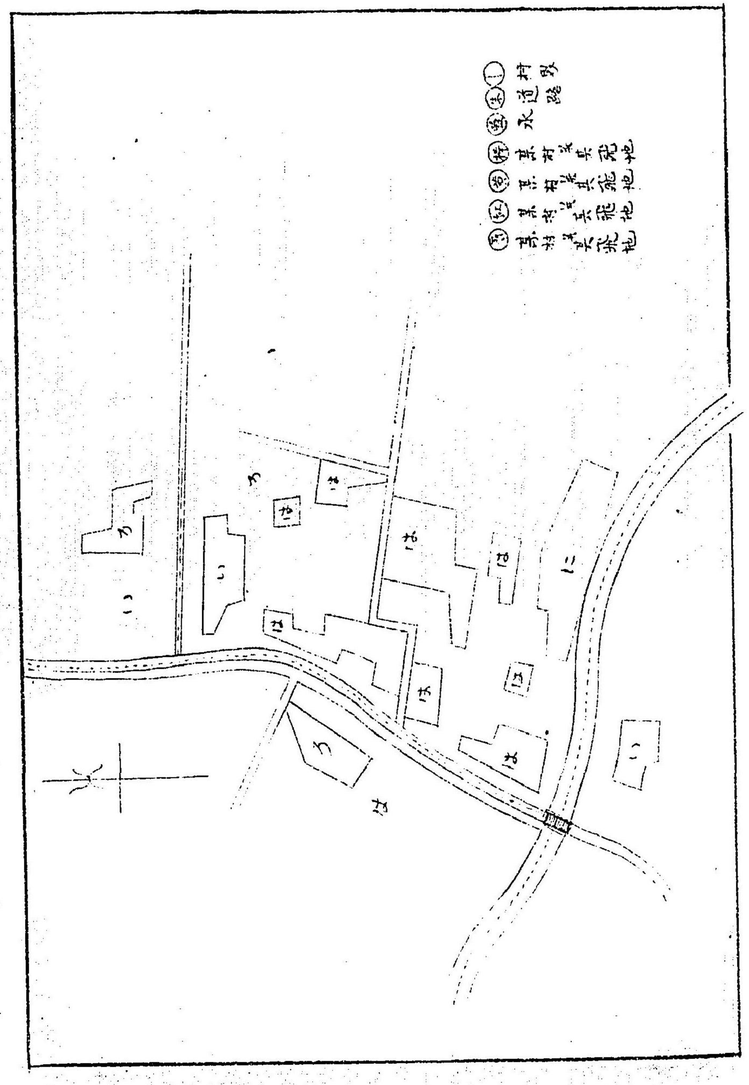
内譯

田反別何程

何村ヘ可組替飛地

畑反別何程

山林反別何程



殘反別何程

一反別何程

外

反別何程

内譯

田反別何程

畑反別何程

山林反別何程

合反別何程

一反別何程

内

反別何程

内譯

何村飛地所村　何村

何村ヨリ飛地可組入分

何村へ可組替飛地

一何村

田反別何程
畑反別何程
山林反別何程
殘反別何程
外
反別何程
內譯
田反別何程
畑反別何程
山林反別何程
合反別何程

何村ヨリ飛地可組入分

右ハ十一年縣甲第四號御布達及十三年縣乙第卅三號御達ニ據リ飛地或ハ錯雜地編入替可相成分書面ノ通有之候間別紙地圖二葉相添双村吏民連署此段開申候

也

年號月日

縣令宛

何國何郡何村
小前惣代　姓　名　印
右村戸長　姓　名　印
何國何郡何村
小前惣代　姓　名　印
右村戸長　姓　名　印

○乙第四十七號　明治十五年五月廿九日　郡役所　戸長役場

十六年十二月乙第百三十六號ニテ訂正アリ

全國地籍編纂ノ儀明治七年内務省乙第八十四號ヲ以テ達相成候處猶其筋ヨリ照會ノ次第有之候ニ付別紙取調順序ニ倣ヒ地籍調理可致丈量帳簿ヒ字限繪圖一村圖トモ來ル八月限リ取調可指出此旨相達候事

地籍取調順序

第一條　地籍編製ノ爲メ土地ヲ調製スルハ官民地ヲ問ハス現地丈量ヲナシ

寸地モ遺漏ナク精密調理スルモノトス

第二條　耕地宅地社地荒蕪原野地及山林等地租改正ノ節調査セシモノハ其方積ニ憑據シ記載スヘシ

第三條　畦畔道路堤塘河川溝渠溜井島嶼地等地租改正ノ際ニ漏レタル分ノミ字限一筆毎方位ニ關セス實測シ方積ヲ得テ成丈ケ一筆ニ記載スヘシ岐道支流或ハ三叉ヲ成ス類實際一筆ニ調記シ難キモノハ二筆三筆ニ取調フルモ妨ケナシ

第四條　境界査定方海ト陸地トハ滿潮ヲ以テ其區別ヲナシ水流ノ界トスルモノハ其中央ヲ以テシ山頂ハ雨水分派スル所ヲ以テシ道路ハ其中央ヲ以テ堺トナスヘシ

但從前ノ境堺ハ此限ニ非ス

第五條　各村地引繪圖字限リノ分寫取（野取帳ニ代用ス）實地ニ照シ十字繩ニテ畦畔道路堤塘等各々丈量ヲナシ（長何間横何間）記載スヘシ

第六條　地名記載方官用地ハ總テ其直轄スル官省等ノ名ヲ以テシ官有地ノ道路堤塘溝渠ノ類ハ地目等ヲ記シ民有地ハ其所有者ノ名ヲ以テスヘシ

第七條　甲乙村堺ニカヽル箇所丈量ヲナス場合ニ於テハ必ス兩村々吏幷ニ民總代二名必ス立會重複セサル樣注意シ圖面ヘ記名捺印スヘシ

第八條　各種ノ內地引繪圖ニ漏レタル分ハ場所先ニ於テ其形チヲ摸寫シ第五條ノ如ク（縱橫）間數書入現地丈量濟ノ後各地目ヲ論セス雛形圖面ノ振合ニ倣ヒ朱字ニテ順次番號ヲ付スヘシ

第九條　右番號記入ノ上第一號書式ノ如ク一字限今般取調タル各地目反別詳記シ丈量帳相製シ繪圖相添差出スモノトス

第十條　右丈量帳差出檢閱ノ上下付スルニ於テハ第二號書式ニ倣ヒ地籍帳二タ通リ相製シ差出スヘシ之ヲ調査誤謬ナキニ於テハ之ニ割印ヲナシ一ト通リハ本縣ニ相備ヘ一ト通リハ下戻スモノトス

第十一條　地籍番號ハ更ニ相設クルニ及ハス順次地券番號ヲ用ユルカ故ニ畦畔ハ耕地ノ內番號（假令ハ耕地百番ノモノナヲ付シ道路堤塘川沼澤池等ノ如キハ末番ヨリ順次付スヘシ但シ舊若松縣所轄町村ノ儀ハ改租地券ノ番號何字ヲ問ハス一町村押番號ニシテ地籍編纂差支ニ付今般更ニ字限リ番號ヲ設ケ本條ノ通取調フヘシ

第十二條　右帳簿調製方ハ本年一月一日現在地目ヲ以テシ爾後變換ノ地ハ張紙致シ置キ追テ改正濟伺出ツヘシ

第十三條　年度ハ歷年度ヲ用ユルモノトス

第一號

年號月日

丈　量　帳

何國何郡

何　村

字何

何番ノ内		持主
一畦畔	長何間横何間	此反別何反何畝歩
二十四番		
一溝渠	同〃〃	何某
二十五番		
一道	同〃〃	同〃〃
二十六番		
一堤塘	同〃〃	官有地（或ハ共有地）
二十七番		
一池	長何間横何間	此反別何反何畝歩
二十八番		
一堤塘	同〃〃	何某
二十九番		
一同	長何間横何間	同〃〃
三十番		
一道	同〃〃	同〃〃
三十一番		
一堤塘	同〃〃	同〃〃
三十二番		
一川	同〃〃	同〃〃
三十三番		
一溝渠	同〃〃	同〃〃
三十四番		
一沼	長何間横何間	同〃〃
三十五番		
一溝渠	同〃〃	官有地（或ハ共有地）

三十六番

一道　長何間 横何間　同、、、、、、　、、、、、、

字何

何番

一何　長何間 横何間　此反別何反何畝歩　官有地

持主

何番

一何　長何間 横何間　同、、、、、、　何某

右者當町村地籍編纂ニ當リ地租改正ノ際相漏レ候各種一筆限取調候處書面之通相違無之依テ實測圖面相副書上候也

何國何郡何町村

年號月日　小前總代　何某印

用係　何某印

戸長　何某印

縣令宛

○第貳號

年號月日

地籍

○從壹番字

○至何番字

○但枚數相嵩ミ冊數ニ渉ルモノハ何冊ノ内二一ト付ス

何國何郡

何村

○ハ朱書

凡例

一町村地籍ヲ編製スルハ一村全地ノ繪圖ヲ製シ而シテ各地一筆限リノ方積ヲ求メ以テ基礎トス

一一町村ノ内字毎順次ニ番號ヲ附シ第一級ニ記入ス

一一字ノ内一筆毎地券番號ヲ付シ道路川堤塘等改正ノ際漏レタル分ハ右末番ヨリ順次番號ヲ附シ第二級ニ記入ス

一田畑宅地等ノ地名ハ第三級ニ記入ス
一一筆毎ノ番號ヲ逐ヒ其方積ヲ四級ニ記入ス
一田畑宅地山林等地位地番朱字ヲ以テ第五級ニ記入ス但官林及河港道路ニ限リ地番ハ墨字ヲ要ス
一地種ハ第九級ニ記入ス
一官用地ハ其直轄スル官省等ノ名官有地道路堤塘溝渠ノ類ハ地目等ヲ記シ民有地ハ其所有者ノ以テ第十級ニ記入ス
一反別地坪ハ總テ地籍年度ニ關スル年月日ノ現實際ヲ登錄ス
一該表ハ明治十五年六月三十日現實際ヲ以テ調製シ地籍年度中變換ノ廉ハ掛紙ヲ以テ訂正スルモノトス

字番並字	一筆番號	地名	方積	地番				地種	所有名
一	一	田	何反何畝歩	七				民一	何某
	ノ内	畔	何、、、歩					同	同人
番字何々	二	畑	何、、、歩	八				同	何某
	三	宅地	何、、、歩	何				同	何某
	四	貸宅地	何、、、歩					官三	拜借主何某
	五	草地	何、、、歩	何				民一	何某
	六	村社	何、、、歩					官一	
	七	道路	何、、、歩					官三	
	八	堤塘	何、、、歩					同	
		内道	何、、、歩						
二	一	田	何、、、歩	何				民一	何村何某
	ノ内	畔	何、、、歩					同	同人
	二	貸田	何、、、歩					官三	拜借主何某
	ノ内	畔	何、、、歩					同	拜借主同人

番	字	何
三	畑	何丶丶歩
四	温泉	何丶丶歩
五	原野	何丶丶歩
六	秣場	何丶丶歩
七	縣社	何丶丶歩
八	墳墓地	何丶丶歩
九	萱地	何丶丶歩
十	縣用地	何丶丶歩
十一	道路	何丶丶歩
十二	川	何丶丶歩
々	内電信柱敷	何丶丶錢
々	内貸宅地	何丶丶歩
三	畑	何丶丶歩
十三	池	何丶丶歩
十四	溝	何丶丶歩
十五	堤塘	何丶丶歩
々	内道路	何丶丶歩
一	畑	何丶丶歩
二	工部省用地	何丶丶歩
三	宅地	何丶丶歩
四	司法省用地	何丶丶歩
五	畑	何丶丶歩
六	寺	何丶丶歩
七	草地	何丶丶歩
八	小社	何丶丶歩

番	字	何
三	畑	何丶丶歩
四	温泉	何丶丶歩
五	原野	何丶丶歩
六	秣場	何丶丶歩
七	縣社	何丶丶歩
八	墳墓地	何丶丶歩
九	萱地	何丶丶歩
十	縣用地	何丶丶歩
十一	道路	何丶丶歩
十二	川	何丶丶歩
々	内電信柱敷	何丶丶錢
々	内貸宅地	何丶丶歩
三	畑	何丶丶歩
十三	池	何丶丶歩
十四	溝	何丶丶歩
十五	堤塘	何丶丶歩
々	内道路	何丶丶歩
一	畑	何丶丶歩
二	工部省用地	何丶丶歩
三	宅地	何丶丶歩
四	司法省用地	何丶丶歩
五	畑	何丶丶歩
六	寺	何丶丶歩
七	草地	何丶丶歩
八	小社	何丶丶歩

民一	何	某
同		
同		
同		
官三	拝借主何者代理何	某
民一	何	某
官三		
官一		
同		
同		
官三	拝借主何	某
官二	何郡役所	
官三		
民一	何	某
官三		
官一		
同		
同		
同		
官二	何電信分局	
民一	何	某
民一	何	某
官二	何裁判所支廳	
民一	何	某
官四		
民一	何	某
官一		

々		
九	道路	何丶丶丶歩
	内堤塘	何丶丶丶歩
	内電信柱敷	何丶丶丶歩

四番字何		
一	郷社	何丶丶丶歩
二	山	何丶丶丶歩
三	林	何丶丶丶歩
四	用材山	何丶丶丶歩
五	雑木山	何丶丶丶歩
六	水源涵養山	何丶丶丶歩
七	松山	何丶丶丶歩
八	堂宇	何丶丶丶歩
九	沼	何丶丶丶歩

々		
十	澤	何丶丶丶歩
十一	島	何丶丶丶歩
十二	墓地	何丶丶丶歩

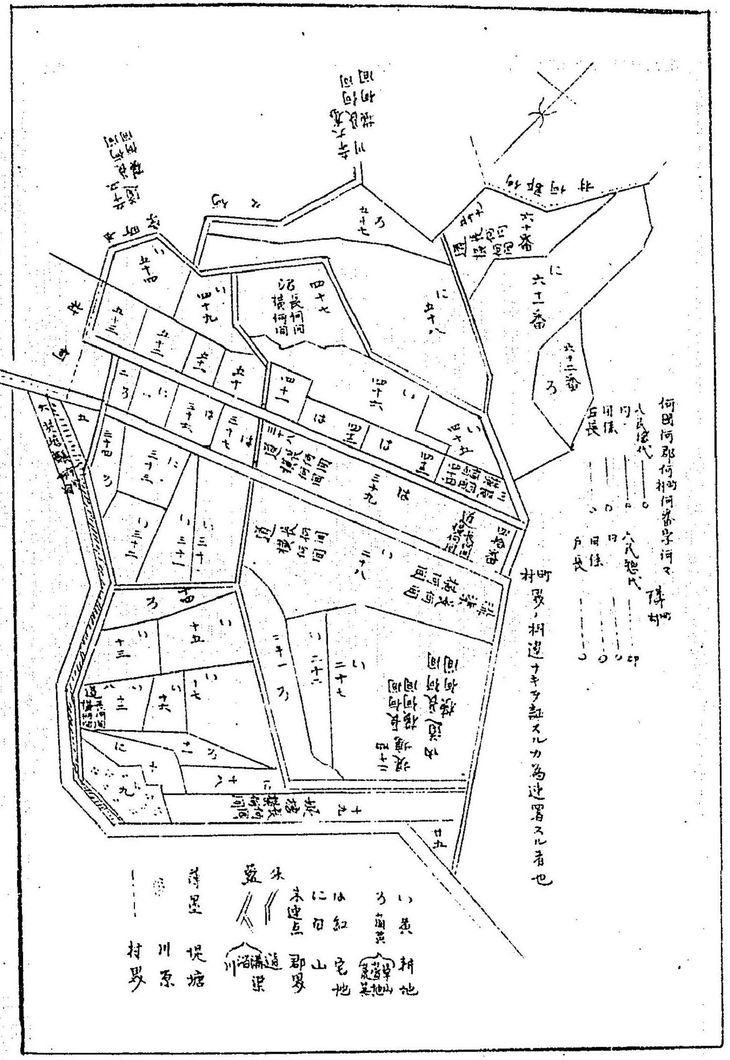
種類	地名	地番	積	官有地	自一番字至何番字小計。此ノ如ク凡紙十枚ニシテ字ノ見限チナシ小計ヲ付スヘシ
一	縣社	何反何畝歩	何筆	筆數	共有地（戸長或用係）何某
	郷社				
	村社				
二	縣用地				
	司法省用地				
	工部省用地				

々		
九	道路	官三
	内堤塘	官一
	内電信柱敷	民一何某

四番字何		
一	郷社	官一
二	山	民一何某
三	林	同何某
四	用材山	官三
五	雑木山	同
六	水源涵養山	同
七	松山	同
八	堂宇	同
九	沼	同

々		
十	澤	同
十一	島	同
十二	墓地	民一何某

種類	地名	地番	積	官有地	自一番字至何番字小計。此ノ如ク凡紙十枚ニシテ字ノ見限チナシ小計ヲ付スヘシ
一	縣社	何反何畝歩	何筆	筆數	共有地（戸長或用係）何某
	郷社				
	村社				
二	縣用地				
	司法省用地				
	工部省用地				



		四	三								
民有地	計	寺敷地	水源涵養山	用材山	内貸宅地	内堤塘	道路	川	温泉	貸宅地	貸田

種類	地名	積	等級	筆數
一 田	何十何町何反何畝歩			何筆
一 畔				
一 畑				
一 内○電信柱數				
一 宅地				
一 草地				
一 萱地				
一 山				
一 林				
二 墓地				

合計						
自何番字至何番字合計						

○此ノ如ク凡紙數百枚ヲ一册トシ之レニ合計ヲ付シ末册ニ總計ヲ付スルヿ皆小計ノ例ニ倣フヘシ

右ハ當何町村地籍書面ノ通相違無御座候也

何國何郡何町村

小前總代 何 某

年 月 日 用係 何 某

戸長 何 某

縣令宛

○丁第五十五號 明治十七年六月二日

明治十六年丁第六十四號達地種組替願書式左ノ通改正候條此旨相達候事

町村戸長

地種組替願

何國何郡何町村地内

一反別何町何反歩

同郡同町村

潰地々主 何之誰

外何人

内反別何畝歩

畦畔新設ノ分

外反別何畝歩　　元畦畔潰地

内

田反別何反歩

畑反別何畝歩

山林反別何反歩

草野反別何畝歩

外

反別何反何畝歩　　官有地

内

山林反別何反歩

草野反別何畝歩

（此ノ如ク地目限リ記載スヘシ潰地調モ亦同シ）

右ハ（國郡里道）何等線）（溝渠又ハ溜池）修理或ハ開鑿ノ爲メ潰地ノ義（何年何月土

第何號ヲ以テ御指令ヲ（據リ）（何年何月落成ニ付官ノ監督ニ係ルヘキハ如此記スヘシ）撿量候處標記ノ通リ有之候條（官有地第三種）（民有地第二種）ニ御組替被成下度別紙色分圖面幷調書相添此段奉願上候以上

年號月日

有潰地々主總代

何之誰印

同

何之誰印

何町村

戸長何之誰印

縣令宛

潰地一筆限調書

何國何郡何町村

字何　何番　何等

同郡同町村

一何反別何反歩　潰地
　是ハ何年何月潰地
何國何郡何町村
字何　何番　何等
元反別何反歩
一何反別何畝歩　潰地
　外反別何畝何歩
　反別何反歩
　　外反別何畝歩
　　是ハ前同斷
何國何郡何町村
字何　何番　何等
元反別何反歩

地主　何之誰印

同郡同町村

地主　何之誰印
　元畦畔潰地
殘生地
　畦畔新設ノ分

同郡同町村

一何反別何反歩　潰地
　反別何反歩
　　是ハ前同斷
何國何郡何町村
字何　何番
一反別何反歩　潰地
　是ハ前同斷
　右寄
合反別何町何反歩
　外反別何反何歩
　外反別何畝何歩
　内
何反別何反歩
　外反別何反何歩
　外反別何畝何歩

地主　何之誰印

殘生地

官有地

民有地

畦畔新設ノ分
畦畔潰地

畦畔新設ノ分
元畦畔潰地

何反別何反何畝歩
外
合反別何町何反歩
内
何反別何反歩
何反別何反何歩
右取調候處相違無之候也

年號月日

縣令宛

官有地

○乙第百二十六號　明治十七年十二月廿三日

右町村濳地々主總代
何之誰印
同
何之誰印

凡ソ官有地ハ人民ニ使用ヲ許ヤタルモノヲ除クノ外其所在町村費ノ賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨布達候事

但道路疏水等ノ爲メ該町村ヘ手當金ヲ給與スルハ各適宜タルヘシ

○丙第三十六號　明治十八年五月十六日

參謀本部測量局ニ於テ追々全國ニ三角測量網ヲ擴張セ其三角點ノ位置ヲ確定シ標石建設可相成ニ就テハ出張官ヨリ該標石建設方照會有之候節實地差支無之場所ハ便宜建設相成候樣可取計且右標石ノ儀ハ永久ニ保存スヘモノニ付建設ノ上ハ厚ク保護方注意可致此旨相達候事

但本文ノ趣戸長ヘハ其廳ヨリ達方可取計事

○乙第十九號　明治十九年二月十日

官有ノ川敷河原地寄洲川沿地等ハ自今拂下又ハ貸下ヲ許サス從前既ニ貸下タルモノハ當期ヲ限リ返地スヘシ但物揚場等公益上ニ使用スルモノ及ヒ熟田畑ハ貸下クルコアルヘシト雖モ治水ニ妨害アル擅造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽

培スヘカラス此旨布達候事

○訓令甲第百一號　明治十九年九月廿四日

郡役所官有地ニ係ル芝塊切取使用高届方ノ儀明治十五年九月丙第三十二號ヲ以テ相達置候次第モ有之候處自今左ノ表式ニ照準一ケ年取纏メ翌年一月限リ届出ヘシ

明治何年官有地芝塊切取使用高届表

郡名	町村名	字名	番號	親反別	切取坪數	員數	塊ノ寸尺	堰井ニ堤防ノ箇所

右之通候也

年　月　日

何郡役所

○縣令甲第四十三號　明治十九年十一月十七日

山林原野地官民有區別未定ノ分明治十三年(七月)縣甲第七十三號布達置候

二十二年縣令甲第百十七號ヲ以テ官林ニ關スル事項ハ廢セヲル

二十二年八月縣令甲第百二號ヲ以テ削除セヲル

處爾後追々所属確定候分モ有之候得共尚未定ニ属スル地所ニシテ民有ノ確証アルモノハ反別圖面取調証左相添民有地編入ノ儀來明治二十年一月三十日迄願出ツヘシ右期限内出願セサルモノハ官有地ニ編入ス可シ

但未定地ノ内所属町村ノ確定セサルモノモ本文期限内証左相添地籍編入ノ義併セテ出願スヘシ

○縣令甲第十五號　明治二十年一月二十日

官有森林山野ニ關スル諸願届書及圖式出願者心得別冊之通相定ム

但明治十九年(十八月)甲第十八號布達幷ニ此縣令ニ抵觸スル從前ノ布達等ハ取消ス

出願人心得

一願書ハ願人署名調印スヘシ惣代人ヲ以テ出願スルトキハ委任狀若クハ願人連名簿ヲ添フヘシ

一木種目通長ノ異ナルモノハ毎項ニ掲ケ必ス合記スヘカラス

一木種ハ渾テ樹名ヲ記スヘシ實際樹名ノ不詳ナルモノニ限リ雜木ト記スヘシ

一用材ニ充ツヘキ樹木ハ尺〆ヲ算出シ薪炭林ハ棚數ヲ以テ取調フヘシ

一尺〆ハ尺角長二間ヲ以テ一本トス

一尺〆ヲ以テ拂下出願スルトキハ其枝條末木ノ價ヲ本幹尺〆ノ價ニ合シテ算出スヘシ

一目通尺未滿ノモノハ尺〆ヲ算出セス單ニ本數ヲ以テ取調フヘシ

一棚ノ廣狹ハ其地方ノ慣例ニヨルヘシ

一輪伐ハ其年伐樹木ニ限リ願書ニ認ムヘシ

一輪伐年數ハ二十年以上タルヘシ

一家屋堤防橋梁等建築用材拂下出願スルトキハ別ニ仕用帳及工事ノ圖面ヲモ添フヘシ

一立竹拂下願ハ目通ノ大小ニ隨ヒ各項ニ掲ケ長ハ五間以上三間以上三間未

二十一年十一月縣令甲第九十二號ニテ刪除追加アリ

滿ノ三項ニ區別スヘシ

一部分木損木拂下願ハ同伐採願書式ニ準シ取調フヘシ

一借地願ノ二筆以上ニ渉ルトキハ各筆料金ヲ附セス字毎ニ小計シ之ニ料金幷ニ反金ヲ附シ尚通計ヲモ附スヘシ

一繼年季ヲ願ハントスルトキハ滿季三ケ月前願出ツヘシ但最前ノ指令年月日及期限ヲモ記入スヘシ

一一時借地又ハ生草柴等一時拂下ヲ願フトキハ年季借地又ハ拂下願書式ニ倣ヒ取調フヘシ

一生草柴等年季拂下ハ五ケ年以内タルヘシ

一官林地ノ下草落葉拂下ヲ願出ルトキハ生草柴拂下願書式ニ倣ヒ取調フヘシ

但年季ハ三ケ年以内タルヘシ

一部分木植付願ハ部分木仕附條例ニヨリ取調フヘシ

一官有地ノ土石拂下ヲ受ケントスルモノハ年季(五ケ年以内)又ハ一時ニ拘

ハラス第九書式ニ據リ取調フヘシ

一官有地ノ土石試堀ヲ出願セントスルモノハ一ケ年以内ニ限リ許可スヘシ

一凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ土砂ハ六尺立方ヲ以テ一坪トシテ之ヲ算スルモノトス

一隣地ハ凡例ニヨリ色分スヘシ但シ例外ノモノハ適宜色分スルカ若クハ地種地目ヲ記入スヘシ

一此圖式ハ地所ニ關スル諸願等ニ添付スルノ式トス

一圖面ハ其地所東西離隔不得止ノ外ハ可成紙一ニ認ムヘシ

一隣地々主ハ必ス連署スヘシ

一出願地ノ他町村ニ接シタルトキハ其町村惣代連署スヘシ

一地所拂下願ニ添付スル圖面ハ丈量基線ヲ示シ間數ヲ記スヘシ

一輪伐願ニ添付スヘキ圖圖ハ年次ニヨリ區域ヲ詳記スヘシ

（第一號）

官林樹木（輪伐）御拂下願

何國何郡何村字何々番

何等官林反別何程　（官林外ノ地所ハ地目ヲ記スヘシ）

一立木何本　（輪伐ハ一期二期ノ區別ヲ記スヘシ）

此尺〆棚數何程　但（竪何尺長何尺 横何尺）

此代金何程

内

何木何本　但目通何尺 長何間

此尺〆棚數

此代金何程　但（尺〆一本 一棚）ニ付金何程

以下準之

山元引拂期限御引渡翌日ヨリ何日間

右何々用（所用ヲ記スヘシ）ニ付書面ノ代金ヲ以テ御拂下被成下度御許可ノ上ハ代金

速ニ上納可仕ハ勿論御成規遵守可仕候別紙繪圖面（仕譯書）（仕様帳）相添此段奉願候也

年　月　日

何縣何國何郡何町村何番
願人　何　誰
同
保証人　何　誰
戸長　何　誰

知事宛

（第二號）

輪伐仕譯書

何國何郡何村字何何番

（一）筆内ヲ分裂スルトキハ親反別ヲ記スヘシ）

何等官林反別何程（官林外ノ地所ナルトキハ地目ヲ記スヘシ）

此立木何本
同上字何々番
何等官林反別何程
此立木何本
合反別何程　何十ケ年輪伐
此立木何本
内譯
字何何番
反別何程
立木何程
内
反別何程
何木何本

第一期明治何年

反別何程
何木何本
以下準之
右之通取調候處相違無之候也

明治年月日

何縣何郡何町村番地
願人惣代　何　誰

知事宛

（第三號）

立竹拂下願

何國何郡何村字何何番
何等官林反別何程
一立竹何本
此代金何程

（官林外ノ地所ハ地目ヲ記スヘシ）

內譯
何竹何本
此代金何程
以下準之

但目通何寸
長何間

但一本ニ付金何程

山元引拂期限御引渡翌日ヨリ何日間
右何々用（所用ヲ記スヘシ）ニ付書面ノ代金ヲ以テ御拂下被成下度御許可ノ上ハ代金
成規ノ通リ上納可仕候別紙繪圖面相添此段奉願候也

何縣何國何郡何町村番地
願人　何　誰
同
保証人　何　誰
戸長　何　誰

年　月　日

知事宛

（第四號）

部分木植付濟御届

何國何郡何村字何何番

証券第何號（朱書）

一何反別何程

此植付何木何本

右植付相濟候ニ付御檢査被成下度此段御届申候也

何縣何國何郡何町村番地

願人　何　誰

年　月　日

知事宛

部分木（賣買譲與）ニ付御認可願

何國何郡何村字何何番

何國何郡何町村番地

証券第何號（朱書）

一何反別何程

此植付何木何本

右記名ノ通部分木仕附ノ權賣買（譲與）仕度候ニ付御認可被成下度別紙証券相添此段奉願候也

年　月　日

賣渡譲與　何　誰

同上

買受譲受　何　誰

知事宛

（第五號）

部分木伐採（幷ニ御拂下）願

何國何郡何村字何何番

証券第何號（朱書）

右　何　誰印

何　誰印

戸長　何　誰印

一何反別何程

此何木何本

此尺〆(棚數)何程

此代金何程

部合 何官何木何本尺〆(棚數)何程金何程 何民同上

內

何木何本

此尺〆棚數何程

但 目通何尺 長何間

此代金何程

官收何程 民收何程

但(尺〆一本一棚)ニ付金何程

以下準之

山元引拂期限御引渡翌日ヨリ何日間

右何々用(所用ヲ記スヘシ)ニ付民収樹本伐採仕度(官収樹木ハ前記代金ヲ以テ御拂下被成下度尤モ御許可ノ上ハ代金成規ノ通リ上納可仕)候條御允可被成下

度此段奉願候也

何縣何國何郡何町村番地

年　月　日　　願人　何　誰　印

同上

(民収樹木伐採ノミナル片ハ保証人ヲ要セス)　保証人　何　誰　印

戸長　何　誰　印

知事宛

(第六號)

官有地拂下願

何國何郡何村字何何番官有地

(一筆內ヲ分裂出願スル片ハ親反別ヲ朱書スヘシ)

一何反別何程　(實測ノ上反別ニ增減ヲ生シタル片ハ新舊反別ヲ示スヘシ)

此代金何程　但反金何程

右何々用（所有ヲ記スヘシ且ツ借地ヲ成功拂下願出ツルトキハ其許可年月日ヲモ記入スヘシ）ニ付書面ノ代金ヲ以テ御拂下被成下度御許可ノ上ハ代金御成規ノ通リ上納可仕候依テ別紙實測繪圖面相添此段奉願候也

年　月　日

何縣何國何郡何町村番地
願人　何　誰印
同
保証人　何　誰印
戸長　何　誰印

知事宛

（第七號）

官有地拜借願

何國何郡何村字何何番官有地

（一筆ノ內分裂借用スルトキハ親反別ヲ朱書スヘシ）

一何反別何程

此拜借料一ヶ年金何程

何ヶ年季　但本年ヨリ何年迄

右何々用（所用ヲ記スヘシ）ニ付書面ノ料金ヲ以テ拜借仕度御聞届ノ上ハ官有地貸渡規則遵守可仕候依テ繪圖面相添此段奉願候也

年　月　日

何縣何國何郡何町村番地
願人　何　誰印
同上
保証人　何　誰印
戸長　何　誰印

知事宛

（第八號）

官有地生草（柴）拂下願

何國何郡何村字何何番官有地
（一筆ノ内分裂願出ルトキハ親反別ヲ朱書スヘシ）
一何反別何程
此生草（柴）何束　但何尺繩ニ
此代金一ケ年金何程　但一束ニ付金何程
何ケ年季　但何年ヨリ何年迄
右何々用（所用ヲ記スヘシ）ニ付書面ノ代金ヲ以テ御拂下被成下度御聞屆ノ上ハ代金
御成規ノ通上納可仕ハ勿論官用ノ節ハ刈取御差留相成共異議無御座候依テ
繪圖面相添此段奉願候也

年　月　日

何縣何國何郡何町村番地
願人　何　誰印
同上
保証人　何　誰印

廿一年十一月郡令甲第九十二號ヲ以テ第九書式追加セラル

（第九號）

知事宛

何土石拂下願

國郡町村字番地目反別ノ内
一何土石　何坪（何切）　（轉石ハ何箇ト記ス）
此代金何程　但一坪（一切ニ付）何程

（但何年ヨリ何年マテ何ケ年季）

右ハ何々用ニ付前書代金ヲ以テ御拂下被成下度御許可ノ上ハ代金御成規ノ
通上納可仕候依テ別紙圖面相添此段奉願候也

何郡何町村何番地
願人　何　誰

年　月　日

戸長　何　誰印

同上

知事宛

保証人　何　誰
戸長　何　誰

○縣甲第十六號

官有地貸渡規則左ノ通リ相定メ本則第三條以下ハ此縣令以前貸渡シタルモノト雖ヒ之ヲ適用スヘシ

但此規則ニ抵觸スル從前ノ布達等ハ廢止ス

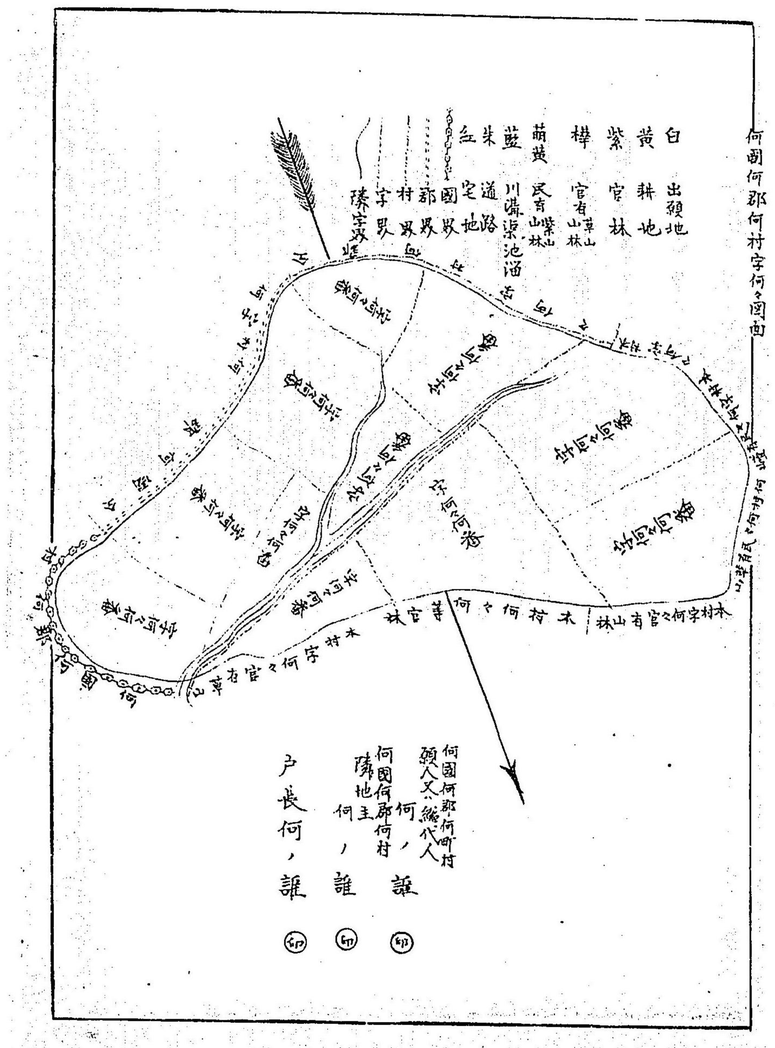
明治二十年一月廿二日

官有地貸渡規則

第一條　此規則ハ開墾地家屋敷地物干場等土地ノ表面ヲ借用スルモノニ限リ適用スヘシ

第二條　官有地ヲ借地セント欲スルモノハ身元慥ナル保証人二人以上ヲ立テ本年縣令甲第十五號官有地拝借願書式ニ照準願出ヘシ

第三條　借地ノ許可ヲ得タルトキハ第十三條ニヨリ直ニ四至ノ境界ヘ標杭



ヲ建設スヘシ但之レカ建設ヲ怠ルトキハ官廳ニ於テ建設シ其費用ヲ借地人ヨリ徴收スヘシ

第四條　官有地借用期限ハ五ケ年以内タルヘシ但相當ノ事故アリタルトキハ繼年季ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條　借地ノ許可ヲ得タル後六ケ月ヲ經過シ目的ノ事業ニ着手セサルトキハ直ニ返地セシムヘシ

第六條　借地ヲ出願ノ目的外ニ使用シタルトキハ原形ニ復シ返地セシムヘシ但之レカ爲メ其勞費ノ償ヲ下附セサルヘシ

第七條　借地ハ書入質入ヲ爲スコトヲ得ヘシ但轉貸ハ官ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第八條　借地料ハ借地人ヨリ納ムヘシ

第九條　借地料ヲ期限ノ通リ上納セサルトキハ其貸下ヲ取消スヘシ但此場

合ニ於テハ其勞費ノ償ヲ下附スルヲナカルヘシ

第十條　借地ハ期限中タリト雖モ公用ノ節ハ返地セシムヘシ但此場合ニ於テハ其勞費ノ償ヲ下附スルヲナカルヘシ

第十一條　借地ノ開墾成功シタルトキハ素地相當代價ヲ以テ拂下クルヲアルヘシ

第十二條　繼年季ヲ出願セント欲スルモノハ滿期三ケ月前願出ヘシ

第十三條　借地ノ境界標杭ハ左ノ書式制限ニ據ルヘシ

書式

明治何年何月日何々許可

何縣何國何郡何町村字何

官有地反別何程　何國何郡何町村　借地人　何之誰　外何人

明治自何年至何年何ケ年季

制限

反別　一丁歩以下　長地上五尺以上

反別　一丁歩以上　方三寸以上

反別　十丁歩以上　方八寸以上

第十四條　無料借地ハ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○縣令甲第五十八號　明治二十年四月一日

新タニ水車ヲ建設セントスルモノハ左ノ事項ヲ詳記シ隣地所有主（官有地ヲ除ク）及水下關係町村戸長連署地圖ヲ添ヘ所轄郡役所ニ出願スヘシ

但從來建設シアルモノニシテ其構造ヲ變更スルモノモ本文ニ據リ出願スヘシ

一建設地ノ字地目番號

一宅地ニ變換地價修正届濟年月日

一宅地ニ開拓願濟年月日

一官有地拜借願濟年月日

一日ノ種類箇數
一用水川名
○訓令甲第百十八號　明治廿一年五月十九日
陸軍參謀本部ニ於テ全國測量ノ節官林內ヘ諸標設置及ヒ視通ノ妨害トナルヘキ樹木ハ官林ノ境界ヲ表彰スルモノ社寺ノ風致ニ關係スルモノ又ハ國土保安ニ必要アルモノ或ハ稀有ノ大樹ニシテ容易ニ斧斤ヲ加フヘカラサルモノヲ除クノ外ハ適宜伐採候筈ニ付右樣心得ヘシ
○訓令甲第百二十四號　明治廿一年五月廿五日
陸軍參謀本部測量局ニ於テ測量施業中沿道並木ヘ覘標ヲ附設シ又ハ枝葉ヲ伐採スル等ノ儀モ可有之ニ付此旨相心得ヘシ
○訓令乙第三百九十一號　明治廿一年九月十二日　信夫、伊達、安達、安積、岩瀬、西白河、東白川、北會津、田村、菊多磐前磐城、楢葉標葉郡役所
民有地內ニ建設ノ電信柱敷地手當下渡金明細表ハ別紙書式ニ準シ其年一月ヨリ十二月迄ノ分取調ヘ翌年一月二十日限リ差出スヘシ

但従前ノ達等抵觸ノ分ハ廢止ス　△ハ朱書

明治何年何郡民有地內電信柱敷地手當明細表

一合金何程　△此合金高ハ管下一般其年分敷地手當高ヲ擧クヘシ

柱區別	田畑宅地之部		山林野澤之部	
	本柱	扣柱線	本柱	扣柱線
本數	何本			
六ケ月以上以下區別	全數　半數			
一本ニ付平均敷地手當	金何錢			
小計	金何程			

△一第一欄名稱ニ適合セサルモノハ別ニ區畫ヲ設ケ記入スヘシ
△一平均平員ハ八錢ヨリ多カラサルヲ要ス六ケ月未滿ノ分ハ其半額ヲ超過スヘカラス

右之通相違無之候也

年　月　日

何郡印

○縣令甲第三十一號　明治二十年二月十九日

電信線路ニ接近シタル地ノ家屋ヲ改造又ハ其地ニ新築セントスル者ハ自今最寄電信分局ヘ届出検査ヲ受クヘシ

○縣令甲第九十號　明治廿一年十一月二日

畦畔溝渠及耕作徑ヲ廢設シ耕地ノ區畫ヲ大ニシ馬耕使用ノ便ヲ圖ラン爲メ之レカ區畫ノ改正ヲ望ムモノハ工事ノ難易ト費用ノ多寡トヲ斟酌シ五ケ年以下ノ相當年期中ハ總テ元地ノ儘据置滿期ニ至リ其反別ヲ丈量シ賦除租ノ儀取計候條其區畫ヲ改メントスルモノハ耕地ノ繪圖面ヲ添ヘ願出スヘシ

○縣令甲第七十二號　明治廿二年六月十三日

開墾牧畜等ノ名義ヲ以テ官有地ノ拂下ヲ受ケタルモノニシテ其土地成功以前ニ於テ之ヲ他人ニ賣渡シタルトキハ其拂下ヲ取消スコトアルヘシ

○訓令甲第百五十一號　明治廿二年八月卅一日　郡役所　町村役場

官林及ヒ官有地ニ係ル願出アルトキハ地元故障ノ有無ヲ証明スル儀肝要ニ付町村長ハ篤ト調査ヲ遂ケ該願書ニ故障ノ有無ヲ特ニ奥書又ハ添書進達スヘシ

○丁第四號　明治十五年七月十五日

官林及官有山林火災或ハ蟲害ニ罹リタルトキハ別紙表式ニ照準シ郡役所ヲ經由シ其都度可届出此旨相達候事

但シ官林監守人所在ノ官林ニ係ルトキハ此限ニアラス

森林被害表

國郡村字	林位	種類	針闊	事故	本數	親反別	別反

十五年十一月丁第四十號ニテ但書追加セラル

合計	

一本表森林ノ火災或ハ蟲害等ニ罹リタルヿヲ記入スルノ式トス

一事故ノ欄ヘハ災害ノ名稱ヲ掲クルモノトス

一小柴ニ係ルモノハ束數ヲモ記スヘシ

○丁第五號　明治十五年七月十七日　町村戸長

官有森林山野ノ植物盜犯ニ係リタル贓品及賠償金裁判所ヨリ引渡相成候節ハ該品請取而シテ其宣告書寫相副其都度所轄郡役所ヘ可屆出此旨相達候事

但シ引渡ノ節ハ戸長宣告書無之トキハ裁判所ヨリノ公文寫相副可差出候事

○丁第三十號　明治十七年三月十九日　町村戸長

本年二月第三號布達相成候ニ付テハ民有森林ノ内水源涵養土砂扞止風潮除類雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ堀採セントスルモノアルトキハ其都度實地ヲ審査シ詳細其景狀ヲ具シ開申可

廿年一月縣甲第十號ニテ改正刪除アリ

致此旨相達候事

○戊第二十一號　明治十七年十二月十三日　郡役所　戸長役塲

森林ハ人生ノ必用國土保安ノ基本タル言ヲ俟タス然ルニ近來往々所濫伐ノ弊風アラサルハナシ夫レ森林ハ百年ノ計ナレハ痛ク其弊風ヲ戒メ保護栽植ノ道努メサレハ獨リ薪炭用材ニ欠亡ノ憂アルノミナラス水ノ涸潤地ノ肥瘠氣候ノ調和穀果ノ豐歉漁業ノ盛衰等ニ關シ一大利用ヲ欠クハ明カナリトス故ニ早ク現時ノ衰態ヲ挽回シ加フルニ一層ノ盛大ヲ期セスンハアル可カラス今ヤ本縣下漸ク一町村又ハ數人協同民林保護栽植法申合規約ヲ制定シ以テ其端緒ニ著クモノアリト雖モ未タ全管各町村ニ及ハサルヲ憾トス依テハ郡村吏ニ於テ能ク此意ヲ體シ部下人民ヲ諭シ速ニ其方法制定セシメ候樣篤ク注意可致此旨相達候事

○乙第二十七號　明治十八年三月十一日

今般民林取締準則別紙ノ通相定メ候條此旨布達候事

（別紙）

民林取締準則

第一條　縣下每町村又ハ數町村聯合各便宜ニ從ヒ林區ヲ定メ每區協議ノ上民林保護要用ナル取締規約ヲ設ケ郡長ノ認可ヲ於テ施行スヘシ

第二條　林區ハ總テ何郡何林區（林名若クハ其町村名ト稱シ區內町村ニ一名若クハ數名ノ民林掛員ヲ撰定シ其人名ハ郡役所ヘ屆出ツヘシ

第三條　林區內本則ニ係ル一切ノ費用ハ適宜評定スヘシ

第四條　規約上ニ關スル事務ハ其區內民林掛ニ於テ主管スヘシ

第五條　取締ノ要旨ハ栽植保護ノ二法ニ基キ左ノ各項ニ據ルヘシ

第一　漫リニ成長木ノ稚樹ヲ伐採スヘカラス

第二　伐木シタルトキハ其木數ノ三倍ヨリ少ナカラサル適地ノ樹苗ヲ栽植スヘシ但再發芽ヲ養成スルモノハ此限ニアラス

第三　薪炭林ノ伐採ハ成ルヘク輪環法トシ其輪伐區畫ヲ定メ置クヘシ

第四　野火盜伐及蟲害ノ豫法方ヲ設クヘシ

第五　違約者ノ責任ヲ定ムヘシ

第六　共有ノ秣場ハ年々其需用ノ數量ニ應シ土地廣狹ヲ算定シ餘地ハ植林地ニ充ツヘシ

第七條　每林區民林掛員ハ每年一回區會ヲ開キ費用收支ノ決算ヲ審ニシ之ヲ林區內ニ報告シ且ツ實驗上ノ利害ヲ論究シ及ヒ山林一般ニ該ル利益增進ヲ圖ルヘシ

但開會期日ハ當日五日前迄ニ郡役所ヘ屆出ツヘシ

○乙第九十號　　明治十八年七月十八日

官林官有地ニ生スル立木（薪炭用雜木）及ヒ柴、草、萱等拂下及官有借地出願ノ者ハ每年十月（本年ハ此限ヨリニアラス）翌年二月迄ニ可願出此旨布達候事

○訓令甲第百八十一號　　明治廿二年十月十九日　郡役所　町村役場

這般閣令第二十四號ヲ以テ本縣官林幷ニ右ニ屬スル事務栃木大林區署ノ管

轄ニ属セラレ候處官林内火災風損蟲害盜伐其他官林ノ利害ニ關シテハ平素郡長町村長等ニ於テ注意スヘキハ勿論ノ義ニ付右等發見セシトキハ速ニ大小林區署又ハ派出所ノ内ヘ便宜申報シ且難差置場合ニ於テハ直ニ之レカ防禦取締方ニ從事スヘシ

○告示第二百五十二號　明治廿二年十月十九日

栃木大林區署位置ハ栃木縣宇都宮塙田村五百七十二番地栃木大林區署福島派出所位置ハ福島縣福島町字南裏通一丁目二十三番地ト相定メ本月十八日開廳事務取扱候旨通牒有之候條官林ニ關スル諸願伺等ハ總テ栃木大林區署長林務官梅澤敏宛ヲ以テ福島派出所ニ差出スヘシ

○訓令甲第三百三十三號　明治二十年十二月一日　郡役所

明治十九年(九月)縣令甲第十四號郡長分任條件第四項ニ依リ官有地ノ倒木枯木竹木賣却ノ節ハ爾今當廳ヘ報告ノ都度左式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ヘ通知スヘシ

立木拂下表

國郡	村字	林位地目	事故摘要	木種	長	目通	本數	拂受人在籍一姓名
合								

○縣令甲第二十九號　明治廿一年三月卅一日

明治十九年(十二月)縣令甲第五十三號殖林奬勵費下與規則左ノ通更正明治二十一年四月一日ヨリ施行ス

殖林奬勵費下與規則

第一條　奬勵費ハ一人若シクハ數人協同松杉檜栗欅椚ノ苗木ヲ栽植スルモノニ限リ五百本毎ニ金三拾錢ヲ下與スヘシ

第二條　栽植スヘキ苗木ノ生育年數ハ松杉檜欅ハ三年以上椚ハ二年以上栗ハ二年以上タルヘシ此制限未滿ノモノハ奬勵費ヲ下與セス

第三條　苗木ノ栽植ハ一坪二本以下タルヘシ制限外ノ員數ハ奬勵費ヲ下與

第四條　奬勵費ヲ下與シタル後ヲ其苗木ノ枯死シタルトキハ十八ケ月以内ニ繼植スヘシ

但本文期限ヲ經過シ尚繼植セサルモノハ其本數ニ相當スル奬勵費ヲ還納セシムヘシ

第五條　苗木栽植者ハ別紙雛形ニ照準栽植終リタル日ヨリ六十日以内ニ届出ツヘシ

但本文期日ヲ經過シタルモノハ奬勵費ヲ下與セス

第六條　郡役所ハ前條ノ届書ヲ得タルトキハ實地ヲ檢査シ其相違ナキヲ確認シタル上縣廳ヘ進達スヘシ

第七條　此規則ハ部分木栽植ニモ之ヲ適用スヘシ

苗林栽植之儀ニ付御届

何國何郡何村字何

何番（反別何程ノ内）

一何反別何程　持主何誰（官地部分木第何號）

但一坪ニ付何本

此植付何木何本

右何年何月何日ヨリ何月何日迄栽植仕候處相違無御座候ニ付御成規ノ通殖林奬勵費御下與被成下度圖面相添ヘ此段御届仕候也

何國何郡何村何番地

何誰印

年　月　日

知事宛

前書届出ニ付實地檢查候處相違無之候也

何村戸長　何ノ誰

年　月　日

○縣甲第七十二號　明治十五年四月一日

明治十一年内務省甲第四號達部分木條例ニヨリ植付ケタル樹木枯損（老慶及ヒ風火水災ニ關リ倒木枯木損木等ヲ云フ）ニ屬スル片ハ其植付後十五年未滿ノモノハ之ヲ所有主ニ下付シ十

五年以上コシテ所有主相當代價ヲ以テ拂下ヲ乞フモノハ之レヲ拂下官部ニ属スル代金ヲ上納セシム若シ望ナキトキハ公賣シテ民部ニ属スル代金ハ下附可致候條右等ノ事件ハ其所轄郡役所ニ可申出此旨布達候事

○丁第九十五號　明治十六年九月廿九日　町村戸長

部分木植付權ヲ賣買讓渡等ニ據リ劵狀書換出願ノ節ハ該劵狀裏書ヘ確認ノ証ヲ記スルニ自今主任属官記名下附候條此旨相達候事

（參考）農第千八百三十四號　明治二十年十月十日

地押調査上ヨリ發見セル無願使用官地處分ノ儀ニ付追々御通知及候次第モ有之候處尚植樹ノ爲メ使用候分ニシテ部分木仕附條例ニヨリ劵狀下附ヲ請フモノアルトキハ何分ノ詮議相成候筈ニ付此段及通知候也

（參考）內務省甲第四號布達　明治十一年三月十四日

植林ノ儀ハ最モ方今ノ急務ニ付今般部分木仕付條例別紙ノ通施行候條其趣旨ヲ體認從事候樣可致此旨布達候事

部分木仕付條例

第一條　樹木ナキ官有ノ山野官ニ於テ差支無之トキハ人民ノ願ニヨリ之ヲ貸渡シ地味ニ適當セル木種ヲ植挿セシメ其幾分ヲ官納シ自ラ其幾分ヲ收メシムル之ヲ名ケテ部分木ト云フ

但シ官林伐木跡ト雖モ從前部分ノ慣行有之箇所ハ本文ニ準スルヲ得ヘシ

第二條　第一條ノ趣旨ヲ以テ官地ヲ拜借セント欲スルモノハ先ツ該所ノ反別ヲ測量シ地味ノ適否ヲ審査シ別紙第一號書式ニ照ラシ地方廳ニ願出ヘシ

第三條　前條ノ塲令ニ於テ地方廳ニ於テ派遣シ巡視點撿事實相違ナキトキハ之ヲ聞届別紙第二號書式ニ倣ヒ貸地劵狀ヲ下ケ渡スヘシ

第四條　樹木部分ノ方法ハ運輸ノ便否地味ノ善惡人民希望ノ厚薄ニ二官八民（仮令ハ百本ノ立木ナレハ廿本ヲ官收シ八十本ヲ人民ニ付與スルヲ云）ノ間適宜ニ之ヲスヘシ

第五條　第四條ニ掲クル所ノ部分方法ハ成木ノ上立木ノ儘分配スルアリ又ハ伐木ノ節官民ニ各評價人ヲ出シ總計金額ヲ豫算シ金員ヲ以テ配賦スルアリ共ニ官民協議ノ上適宜ニ之ヲ定ムルモノトス

但不得止事故アッテ官ニ於テ該地入用ノ節ハ相當代價ヲ以テ其民有ニ當レル樹木ヲ買上ケヘシ

第六條　地方廳ニ於テハ臺帳ヲ製シ毎年人民ヘ貸渡シタル地所反別植付挿付木種員數及ヒ拝借人ノ住所姓名共詳細取調前年十二月迄ノ分翌年一月限リ内務省地理局ニ届出ヘシ

第七條　官ハ地所ノ貸渡料ヲ取立サルヘシ借人ハ植挿養護ヲ擔任スルモノトス

第八條　植挿ノ後樹木成育スルニ隨ヒ手入伐木セント欲スルキハ前以テ地方廳ニ願出ッヘシ地方廳ニ於テ實地點檢不都合ナキモノハ是ヲ許可シ妄除ノ樹木ハ悉ク仕立主ニ下付スヘシ而シテ臺帳ニ就キ其妄伐セシ木數ヲ削除シ其翌年一月限リ遺漏ナク内務省地理局ニ届出ッヘシ

但シ十五年以後ニ至リ拔伐スル木品最初ノ約束ニ基キ各之ヲ配賦スヘシ

第九條　地所拝借願濟ノ上ハ四至境界ヲ正シ四隅ヘ左ノ通仕立主ヲシテ標木ヲ建設セシムヘシ

何府縣下何國何郡何町村字何　四至境界

第何號何官何民部分木反別何程

仕立主何郡何町村

何ノ　誰

第十條　仕立主ノ都合ニヨリ其部分木仕付ノ權ヲ他ニ讓渡サント欲スルトキハ其事實ヲ詳記シ地方官ニ願出ッヘシ地方廳ニ於テハ實際不都合ナキモノト認ムルトキハ証券ニ裏書シテ下渡シ追テ内務省地理局ヘ届出ヘシ

但本文ノ樹木ヲ質入書入セント欲スルトキハ明治七年第六號公布ノ手續ニ準擬ノ所轄戸長ノ檢認ヲ受クヘシ

第十一條　借地反別ハ豫メ其制限ヲ不定ト雖モ其栽植見込ノ員數ニ對照シ相當ノ地積ヲ貸付スルモノトス

但植立員數ノ都合ニヨリ廣大ノ地積ヲ要シ一時植揷ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ三ケ年以內ノ期限ヲ以テ追次其植繼ヲ許スヘシ然レトモ三ケ年ヲ過キ猶其植揷未了ノ地ハ返附セシムヘシ

第十二條　一時植立追次植繼ニ拘ラス實地植立濟ノ上ハ其旨地方廳ニ屆出之レカ檢查ヲ受クヘシ

（雛形）

御管內何國何郡何町村字何草野草山反別何々ヘ何木何本幾官幾民ノ部分方法ヲ以テ御規則ノ通私費植付揷付被差許度此段奉願候也

年　月　日

何誰印

前書ノ通相違無之ニ付被差許度候也

何誰印

地方官宛

何誰印

（參考）內務省甲第十四號布達　　戸長

本年三月當省甲第四號ヲ以テ部分木仕付條例及布達候處右ニ照準出願ノ者ハ別紙條件相心得不都合ノ儀無之樣可致此旨布達候事

何誰印

一部分木仕付條例ニ準ヘ官有拜借許可濟ノ後條例第十條ノ手續ヲナサス竊ニ其地ヲ他人ニ貸ヘ又ハ質入書入ヲ爲スモノ

一同斷許可濟ノ日ヨリ滿一ケ年ヲ過キテ植揷着手セサルモノ

但條例第十一條但書ノ場合ハ本文ト牴觸スルコトナシ

一同斷一ケ年以內ト雖モ主廟ノ樹木ヲ植揷セス他事ニ使用セルモノ

明治十一年六月三日

一植樹ノ爲メ甲ノ地ヲ拜借シ置キ乙ノ地ヨ苗床ヲ設ケ實植苗植等ヲナシ
他日生育ヲ待テ甲地ニ移植スヘキヿノ著明ナルトキト雖モ最初許可ノ日
ヨリ滿三ケ年ニ至リ猶甲地ニ移植セサルモノ
右條々ノ所爲アルモノハ直ニ其地幷地上ニ附着セルモノヲ取上ケ最初貸
渡許可ノ日ヨリ而後ノ借地料ニ當ル金額ヲ徵收シ且其者等（第一條ノ所
爲ニヨリ其地ヲ借リ又ハ質入書入ニ取リタルモノモ亦同シ）ヘ再ヒ此條
例ニ由リ官地ヲ貸渡スヲ許サス

兵事之部目次

乙第九十號　陸軍恩給拜受者改姓名ニ關スル件……一
丁第五十六號　陸軍武官傷痍扶助概則取扱手續……一
丁第八十三號　陸軍恩給令處分ノ件……一
丁第十號　陸軍恩給令中文官ニ關スル件……二
戊第八十二號　陸海軍恩給ヲ受ルモノ賭博犯處分ニ關スル件……二
戊第八十三號　陸軍恩給者受領地轉籍轉換取扱順序……三
訓令甲第百十九號　陸軍恩給取扱規則……四
訓令甲第二百六十一號　陸軍恩給出願中轉籍屆出ノ件……五
訓令甲第百八十七號　海軍恩給令ニ據リ扶助料出願ニ關スル件……五
訓令甲第百十號　陸海軍恩給令ニ關スル件……五
戊第十一號　海軍下士結婚ニ關スル件……七
訓令甲第百三十號　海軍歸休豫備兵結婚ニ關スル件……八
乙第三十號　徵發物件賦課應徵豫定方……八
訓令甲第六號　市場平均物價表取調雛形……一一
訓令甲第三號　徵發物件表ニ關スル件……一三

一植樹ノ爲メ甲ノ地ヲ拜借シ置キ乙ノ地ヨ苗床ヲ設ケ實植苗植等ヲナシ他日生育ヲ待テ甲地ニ移植スヘキヿノ著明ナルヰト雖モ最初許可ノ日ヨリ滿三ケ年ニ至リ猶甲地ニ移植セサルモノ

右條々ノ所爲アルモノハ直ニ其地并地上ニ附着セルモノヲ取上ケ最初貸渡許可ノ日ヨリ兩後ノ借地料ニ當ル金額ヲ徵收シ且其者等（第一條ノ所爲ニヨリ其地ヲ借リ又ハ質入書入ニ取リタルモノモ亦同シ）ヘ再ヒ此條例ニ由リ官地ヲ貸渡スヲ許サス

兵事之部目次

乙第九十號　陸軍恩給拜受者改姓名ニ關スル件……一
丁第五十六號　陸軍武官傷痍扶助概則取扱手續……一
丁第八十三號　陸軍恩給令處分ノ件……一
丁第十號　陸軍恩給令中文官ニ關スル件……二
戊第八十二號　陸海軍恩給ヲ受ルモノ賭博犯處分ニ關スル件……二
戊第八十三號　陸軍恩給者受領地轉籍轉換取扱順序……三
訓令甲第百十九號　陸軍恩給取扱規則……四
訓令甲第二百八十二號　陸軍恩給出願中轉籍屆出ノ件……五
訓令甲第二百八十七號　海軍恩給令ニ據リ扶助料出願ニ關スル件……五
訓令甲第百十號　陸海軍恩給令ニ關スル件……五
戊第十一號　海軍下士結婚ニ關スル件……七
訓令甲第百三十號　海軍歸休豫備兵結婚ニ關スル件……八
乙第三十號　徵發物件賦課應徵豫定方……八
訓令甲第六號　市場平均物價表取調雛形……一一
訓令甲第三號　徵發物件表ニ關スル件……一三

訓令甲第八號　同上調査梗概……一九
訓令甲第十一號　徴發物件中乘馬鞍馬車輪等取調書式……二三
訓令甲第十二號　同上附錄三號ノ符號……二七
照令甲第百三號　徴發馬籍編製ノ件……二八
訓令甲第二百卒六號　徴發馬籍編製及異動取扱手續……三一
訓令甲第二號　徴發例第十二條馬匹車輪等增減取調ノ件……三三
訓令甲第六十七號　進捷物件裝等符號記載方ノ件……三三
訓令甲第十號　馬匹幷駄馬属具徴調……三四
戊第八十號　海軍水兵幷陸軍徴兵徴集ニ應セサルモノ取扱方……三五
乙第二十一號　豫備後備兵點呼召集ニ關スル件……三六
丙第四十七號　陸軍教導團生徒志願者取扱手續……三六
甲第十一號　豫備後備兵寄留地ニ於テ召集ノ件……四二
甲第十四號　徴兵常備中傷痍疾病ニ罹リタル者取扱方……四二
甲第十六號　陸軍看馬卒輜重輸卒組替ニ關スル件……四三
甲第四號　現役輜重兵結婚ニ關スル件……四三
訓令甲第十九號　陸軍召集族費概算表ノ件……四三
訓令甲第五十七號　豫備後備兵幷後備軍名簿調製ノ件……四三

照令甲第三十七號　歸休兵及豫備後備軍軀員召集地ニ至ル時ノ處則……四四
訓令甲第七十八號　陸軍召集事務細則……四五
訓令甲第六十九號　同上細則追加……四八
訓令甲第百六十三號　歸休兵其他旅費支出スヘキ金庫……四九
訓令甲第百四十八號　召集條例中鎮臺規定事務細則……五一
訓令甲第百六十八號　徴兵令第十七條第三項第四項ニ關スル件……七〇
訓令甲第百九十六號　海軍現役兵身上異動届ノ件……七一
告示第百十九號　召集條例ニヨリ警察署ノ認証ヲ受クル件……七一
訓令甲第三百九號　陸軍召集族費概算表ノ件……七一
訓令甲第十一號　他府縣ヨリ寄留者士官候補生其他志願者ノ件……七二
訓令甲第二十四號　歸休兵幷豫備後備軍兵定時演習召集ノ際延期願ノ件……七二
訓令甲第二十六號　召集族費金庫國庫出納本支所ヘ送付概算表調ノ件……七三
訓令甲第八十七號　海軍現役兵滿期歸郷ニ關スル件……七三
訓令甲第百四號　豫備後備歸休兵現在員取調ノ件……七三
訓令甲第百十五號　行軍演習事務手續……七五
訓令甲第百廿六號　監視區長駐劄地幷ニ監視區域……七八
訓令甲第百廿七號　召集狀應用ノ件……七八

訓令甲第百卅二號　陸軍現役下士補充條例第八條ニ據リ現役免除願出ノ件……七九
訓令甲第百五十三號　豫備後備ニ編入セサル志願兵身体檢査ノ件……七九
訓令甲第百六十三號　同上在鄕中守則ニ關スル件……七九
訓令甲第百六十五號　陸軍下士現役免除ニ關スル件……七九
訓令甲第三十號　壯丁名簿調製式……八〇
訓令甲第三十一號　舊徵兵令ニ交渉ノ件取扱方……八一
訓令甲第九十一號　豫備後備役軀員名簿報告ノ件……八二
訓令甲第九十九號　徵兵徵集延期及猶豫中ノモノ異動報告ノ件……八三
訓令甲第百八號　徵兵事務條例施行細則ニ關スル件……八三
訓令甲第百六十一號　壯丁名簿差出方手續……八三
訓令甲第百六十二號　現役人員表調製雛形……八四
訓令甲第百六十三號　徵兵令ニ據リ徵集シタル海軍兵身上異動ニ關スル件……八四
告示第二百卅五號　現役免除願書副本ニ關スル件……八五
訓令甲第百七十號　廿二年以前ノ徵兵相當者失踪逃亡取調雛形……八五

○乙第九十號　明治十五年十一月廿五日

陸軍恩給又ハ扶助料ヲ受ケタルモノ氏名ヲ改メシ時ハ本籍戸長ノ認印ヲ受ケタル届書ニ恩給登錄寫帖ヲ副ヘ縣廳ニ届出ヘシ

○丁第五十六號　明治十七年六月二日　町村戸長

陸軍省ヨリ別紙之通達相成候條此旨相達候事

陸軍省達甲第二十一號　（別紙）　府縣

明治八年太政官第四十八號達陸軍武官傷痍扶助概則ニ據リ扶助料并受ノ者現行陸軍恩給令第六條第八條及第二十八條ニ掲載ノ事故アル時ハ總テ其各條ニ準シ處分スヘキ儀ト可相心得此旨相達候事

○丁第八十三號　明治十七年九月三日　町村戸長

陸軍省達甲第三十八號ヲ以テ陸軍恩給令處分ノ儀別紙之通達ニ付爲心得此旨相達候事　（別紙）

舊陸軍恩給令ニ據リ恩給或ハ扶助料ヲ給與シタル者改正恩給令發布後ニ

訓令甲第百卅二號　陸軍現役下士補充條例第八條ニ據リ現役免除願出ノ件……七九
訓令甲第百五十三號　豫備後備ニ編入セサル志願兵身体検査ノ件……七九
訓令甲第百六十二號　同上在郷中守則ニ關スル件……七九
訓令甲第百六十五號　陸軍下士現役免除ニ關スル件……七九
訓令甲第二十號　壯丁名簿調製式……八〇
訓令甲第三十二號　舊徴兵令ニ交渉ノ仕取扱方……八一
訓令甲第九十二號　豫備後備役軀員名簿報告ノ件……八二
訓令甲第九十九號　徴兵徴集延期及猶豫中ノモノ異動報告ノ件……八三
訓令甲第百八號　徴兵事務條例施行細則ニ關スル件……八三
訓令甲第百六十一號　壯丁名簿差出方手續……八三
訓令甲第百六十二號　現役人員表調製雛形……八四
訓令甲第百六十三號　徴兵令ニ據リ徴集シタル海軍兵身上異動ニ關スル件……八四
告示第二百卅五號　現役免除願書副本ニ關スル件……八五
訓令甲第百七十號　廿二年以前ノ徴兵相當者失踪逃亡取調雛形……八五

○乙第九十號　明治十五年十一月廿五日

陸軍恩給又ハ扶助料ヲ受ケタルモノ氏名ヲ改メシ時ハ本籍戸長ノ認印ヲ受ケタル届書ニ恩給登錄寫帖ヲ副ヘ縣廳ニ届出ヘシ

○丁第五十六號　明治十七年六月二日　町村戸長

陸軍省ヨリ別紙之通達相成候條此旨相達候事

（別紙）　府縣

陸軍省達甲第二十一號　（別紙）

明治八年太政官第四十八號達陸軍武官傷痍扶助概則ニ據リ扶助料拜受ノ者現行陸軍恩給令第六條第八條及第二十八條ニ揭載ノ事故アル時ハ總テ其各條ニ準シ處分スヘキ儀ト可相心得此旨相達候事

○丁第八十三號　明治十七年九月三日　町村戸長

陸軍省達甲第三十八號ヲ以テ陸軍恩給令處分ノ儀別紙之通達ニ付爲心得此旨相達候事

（別紙）

舊陸軍恩給令ニ據リ恩給或ハ扶助料ヲ給與シタル者改正恩給令發布後ニ

於テ其權利移轉若クハ停止及其他ノ事故生セシキハ總テ改正令ニ據リ處分スヘシ此旨相達候事

明治十八年二月四日　町村戸長

明治十八年五月陸軍省達甲第廿四號ヲ以テ但書改正セラル

○丁第十號

陸軍省第五十二號ヲ以テ別紙ノ通達相成候條此旨相達候事

陸軍省達甲第五十二號（明治十七年十二月廿日）　府縣

舊陸軍恩給令ニ據リ恩給扶助料ヲ受ケタル者改正陸軍恩給令御發布後ニ於テ事故生セシキハ總テ改正令ニヨリ處分スヘキ筈ノ所文官ノ職ニ就キタル者恩給等停止ノ事ニ限リ本年當省達甲第三十八號達即チ八月二十六日ヨリ改正令ニヨリ處分可致儀ト可相心得此旨相達候事

但本文改正令ニ據リ恩給ヲ停止スヘキハ準官吏以上ニシテ其俸給ヲ受クル者又扶助料ヲ停止スヘキハ官署ニ奉職シ歲出科目表中俸給ノ部ヨリ支出俸給ヲ受クル者ノ儀ト可相心得事

明治十八年十月十三日　郡役所　戸長役場

○戊第八十二號

太政官第四十九號ヲ以テ別紙ノ通達有之候條此旨相達候事

太政官第四十九號

陸海軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルトキハ同令第六條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者同上ノトキハ同令第二十條（陸軍ハ第二十九條海軍ハ第二十九條）ニ準スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

但シ明治八年（四月）第四十八號達陸軍武官傷痍扶助死亡ノ者祭粢家族扶助概則及同年（八月）第百四十八號達海軍退隱令ニ據リ扶助料若クハ退隱料ヲ受クル者モ本文ニ準スヘシ

明治十八年十月十三日　郡役所　戸長役場

○戊第八十三號

內務省甲第二十八號ヲ以テ別紙之通達有之候條此旨相達候事

內務省甲第二十八號　明治十八年九月二日

陸軍恩給令幷官吏恩給令ニ依リ恩給若クハ扶助料ヲ受ル者其受領地轉換又ハ轉籍等ノ時取扱順序左之通相定候條此旨相達候事

但シ明治十二年(六月)内務省乙第三十號達ハ廢止ス

一、恩給若クハ扶助料ヲ受ル者成規ニ從ヒ其受領地ヲ轉換セントスルトキ現授受ノ管廳ヘ通知スヘシ又轉換先キ管廳ニ於テ先ツ其願ヲ受ケタル節ハ現授受ノ管廳ヘ照會ノ上聞屆クヘシ

一、寄留地管廳ニ於テ恩給若クハ扶助料ヲ受クルモノ其受領ノ權利消絶(死亡者ヲ除ク)ニ至リ又ハ轉籍及改姓名等ノ如キ本人ニ異動ヲ生スルトキハ其旨直ニ本籍戸長ヨリ本管廳ヘ屆出其管廳ハ之ヲ速ニ寄留地ノ管廳ヘ通知スヘシ

一、前各項ニ係ルモノハ其處分ヲ爲シタル管廳ヨリ其族籍姓名金額及聞屆幷ニ異動屆出ノ年月日等ヲ詳記シ速ニ內務大藏兩省ヘ屆出スヘシ

一、明治八年第四十八號公達陸軍武官傷痍扶助概則幷同年第百四十八號公達海軍退隱料及扶助料ヲ受ル者モ右同樣取扱フヘシ

○訓令甲第百十九號　明治十九年十月五日　郡役所　戸長役場

陸軍恩給取扱規則同諸書式左ノ通定メラル

(會計ノ部ヘ全文ヲ揭ク爰ニ省略ス)

○訓令甲第二百八十一號　明治二十年九月二日　郡役所　戸長役場

陸軍恩給令ニ依リ恩給幷ニ扶助料賑恤金給助金等出願中轉籍寄留替致候節ハ速ニ當廳ヘ屆出サシムヘシ

○訓令甲第百八十七號　明治廿一年十一月廿二日

海軍恩給令ニ據リ恩給幷扶助料出願中本人族籍變換若クハ改氏名等異動アルトキハ速ニ當廳ヘ屆出シムヘシ

○訓令甲第百十號　明治廿二年六月十二日　郡役所　町村役場

陸海軍恩給令ニ依リ恩給若クハ扶助料ヲ受ケタル者權利消滅又ハ一時支給ヲ停ムヘキ者報告方左之通之ヲ定ム

但明治十六年(七月)丁第六十五號達ハ廢止ス

第一條　恩給若クハ扶助料ヲ受ケタル者左ニ揭ケル項目ニ該ルトキハ町村長

ハ速ニ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

第一項　恩給ヲ受ケタル者公權剝奪若クハ停止セラレタルトキ

第二項　扶助料ヲ受ケタル者禁錮以上ノ刑ニ該リタルトキ

第三項　恩給若クハ扶助料ヲ受ケタル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルトキ

第四項　扶助料ヲ受ケタル寡婦其家ヲ去リ若クハ再婚シタルトキ

第五項　扶助料ヲ受ケタル孤兒年齡滿二十歲ニ達シ或ハ其戶籍ヲ去リ或ハ二十歲未滿ト雖モ嫁娶シタルトキ

第六項　恩給扶助料ヲ受ケタル者死亡シタルトキ

第二條　前條ノ報告ニハ左ノ諸件ヲ具フヘシ

一　本人ノ族籍官氏名

一　第一項第二項第三項ニ該ルモノハ宣告書ノ寫

一　第六項ニ該ルモノハ死亡年月日

第三條　恩給若クハ扶助料ヲ受ケタル者權利消滅ニ屬シ扶助料移轉スヘキ者無キ時ハ町村長ハ恩給登錄寫帖ヲ收メ第一條ノ報告ニ添付スヘシ

第四條　寄留地府縣廳ニ於テ恩給若クハ扶助料ヲ受ケタル者及ヒ明治八年（四月）太政官第百四十八號達陸軍武官傷痍扶助死亡ノ者祭粢家族扶助概則及同年（八月）太政官第百四十八號達海軍退隱令ニ依リ扶助料若クハ退隱料ヲ受ケタル者モ前各條ニ準シ取扱フヘシ

○戊第十一號　　明治十九年二月十日

海軍大臣ヨリ左之通乙第二號達相成候條爲心得此旨相達候事

乙第二號

下士卒ノ結婚ノ儀ハ自今届出ルニ及ハス

甲第九號

海軍下士卒（徵兵ヲ除ク）ニシテ戶籍上異動アルトキハ其都度當廳經由橫須賀鎭守府ヘ報告スル可シ

但明治十九年(二月)戊第十一號達下士卒結婚ノ儀ハ此限リニ非ス

○訓令甲第百三十號　明治廿一年五月三十日

海軍歸休兵及豫備兵後備兵ノ結婚願書ハ直チニ鎭守府司令長官ニ差出サシムヘキ旨訓令セラル

○乙第三十號　明治十八年三月十六日

徵發令ニ依リ徵發物件ヲ賦課スルハ平時戰事ヲ問ハス軍事ニ關スル重大ノ件ニシテ苟モ滯滯失機ノ憂ナカラシメンヲ要ス依テ同令第八條ニ從ヒ其應徵豫定スヘキ方法別紙之通相定候條此旨布達候事

（別紙）

第一條　徵發令第十二條第一項乃至第三項ノ徵發書ヲ受ケタルトキハ縣令ハ郡長ヘ郡長ハ戶長ヘ達スルヲ例トス

第二條　同令第十二條第一項ノ徵發ヲ課セラレタルトキハ物件差出場所最寄ノ郡ニ賦課スルヲ以テ郡長ハ之ヲ最寄町村ニ賦課スヘシ又同條第二項第三項ノ徵發ヲ課セラレタルトキモ同樣物件差出場所最寄ノ町村ニ賦課スヘキモノトス

第三條　郡長ハ徵發人長ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ地形村落ノ景況ニ依リ隣郡長ト協議シ甲乙郡近傍町村適宜組合ヲ定メ假ニモ妨ケナシ此場合ニ在テハ該郡長連署ノ上屆出可シ

第四條　郡長戶長船舶會社ノ店長ニ於テ徵發書ヲ受ケタルトキハ物件量數及差出場所等取調急使又ハ電報ヲ以テ速ニ縣廳ヘ屆出可シ戶長店長ニ在テハ郡長ヘモ報告スヘシ

但本文屆出タルトキハ時宜ニ依リ縣官ヲ派出シ諸般ノ事務ヲ監督セシムルコアル可シ

第五條　戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ同令第十二條第四項以下各項及第十三條各項ノ徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ勿論徵發事務條例第十條第三十五條ノ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定スヘシ

第六條　徴發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ賦課スルヲ以テ戸長ニ於テハ豫テ部内營業者ノ姓名及其品種等ヲ詳記セル名簿ヲ作リ置キ迅速供給ノ便ニ備フヘシ

第七條　徴發令第四條縣ノ徴發區ニ係ル輸送費ヘ左ノ方法ニ依リ賦課徴集ス

一　輸送費ハ該年度地方税地價割戸數割ノ乘率ニ依リ賦課徴集ス

一　輸送費ハ豫算ナキヲ以テ臨時銀行又ハ會社等ヨリ借入支辨スルモノトス

一　輸送費ノ精算ハ其事ノ終ルヲ待チ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第八條　徴發令第四條郡町村ノ徴發區ニ係ル輸送費ハ郡長戸長ニ於テ便宜ノ方法ヲ設ケ賦課徴集スヘシ

第九條　前條ニ依リ郡長戸長ハ賦課徴集ノ方法ヲ定メ縣廳ヘ届出可シ其方法ヲ變更シタルトキ亦同シ

○丁第二十四號　明治十八年三月十六日

徴發令第八條ニ依リ應徴豫定スヘキ方法本月十六日乙第三十號ヲ以テ布達候ニ付テハ客年三月七日丁第二十七號達ハ廢止候儀ト可心得此旨相達候事

○訓令甲第六號　明治十九年八月七日　信夫　西白河　北會津　郡役所

明治十六年(四月)兵第四百二十三號ヲ以テ市場平均物價表取調方相達置候處該表別紙之通リ改正候條右雛形ニ據リ毎年二十八日限差出ス可シ

○同號　明治十九年八月七日　菊多　磐前　磐城　郡役所

其部内磐前郡平町前三ケ年平均物價表別紙雛形ニ據リ取調毎年二月二十八日限差出ス可シ

何郡何市場平均物價表　何郡役所

種類／平均價	何年	何年	何年	自何年至何年三ケ年
玄米一石	圓	圓	圓	圓
精米一石				

鹽	一石
味噌	一貫目
醬油	一石
漬物	一樽（四斗樽入）
梅干	一樽（四斗樽入）
大麥	一石
小麥	一石
裸麥	一石
粉秣	一貫目
松薪	一貫目
堅薪	一貫目
炭	一貫目

石炭	一噸
藁	一貫目

備考
○各種共其品質數等アルヲ以テ各上中下三等ノ價ヲ平均ス
○漬物ハ澤庵漬トス

○甲第三號　明治十九年八月八日　郡役所

本年閣令第十一號ヲ以テ徵發物件表改正ニ付テハ附錄第三號一ノ徵發物件表ト共ニ別紙雛形ノ諸表調製每年二月二十八日限リ差出ス可シ

但部內ニ於テ新メニ搆造シ若クハ買入タル漁船アルキハ戊號雛形ニ依リ漁船表ヲ製シ其時々差出ス可シ

甲號

徵發物件表

何國何郡　東西凡何里何丁
南北凡何里何丁

毎年十二月卅一日調

何郡役所

郡	件目	牛			馬			車輛				
		車牛	荷牛	畊牛	乘馬	馬車馬	駄馬	畊馬	馬車	荷馬車	人力車	荷車	牛車
何郡	何驛												
	何驛												
	何市街												
	何町												
	其他ノ村落												
	合計												
何郡													

合計												

一本表宿驛ニアラサルモ灣及市街等管内著明ノ場所ハ一々掲出スヘシ

一畊牛及畊馬ハ一郡纏メニシテ其總數ヲ掲クヘシ

一馬ノ内大八車製ノ如キ荷車ヲ引ク者ハ駄馬ニ算シテ馬車馬ニ算入スヘカラス

一車輛ノ内馬車ハ人乘馬車及西洋荷馬車ヲ云フ又荷馬車ハ大八車製ノ如キ者ヲ云フ

一車輛ハ國税ヲ徴收(下半期ノ國税ヲ納メタル數)シタル數ヲ記載スヘシ

乙號

徴發物件表

毎年調

何郡役所

郡／品目	玄米	大麥	小麥	裸麥	鹽	醬油
何郡	石	石	石	石	石	石
何郡						
合計						

一本表物產ハ其年中ニ收穫セシ總數ヲ記載スヘシ

一醬油ハ其年中國稅徵收ノ檢查ヲ爲シタル高ヲ記載スヘシ

一本表一郡ニ計算スルノ際ニ當リ其計數ハ四捨五入ノ法ヲ用ヒ石位ニ止ムヘシ

丙號

船舶表

毎年十二月卅一日調

何郡役所

國名	郡名	郡役所所在市街町村名	戶長役場所在町村名	定繫ノ灣河岸埠名稱（其名稱ナキモノハ町村名）	西洋形 漁船	西洋形 帆船	日本形 五十石以上	日本形 五十石未滿及艀漁舟海川小回舟	倉庫船	水田耕作用船	水災豫備船
何國	何郡	何町	何町	灣							
		何町	同								
		何村	河岸								
		何町	町								
		何町	村								
	何郡	何町	何町	灣							
		何町	同								
		何村	河岸								
		何町	町								
		何町	村								

遊船渡船船橋用船ハ表上スルニ不及

丁號

漁船表

何郡役所

免狀番號	船名	用方	運航港津	所屬會社及船主
一〇二五	何丸	郵船	何港ヨリ何港ヲ經テ何港マテ	何國何郡何町村何社
一二五六	何丸	旅客船	何港ヨリ何港マテ	何國何郡何町村何某

戊號

漁船表

何郡役所

船名	何丸
所屬會社或船主	何國何郡何町(村)何番地 何々社或何某
免狀番號	一〇三八
登簿噸數	何千何百何十噸
買入代價	何万何千何百圓
運航津港	何港ヨリ何々ヲ經テ何港マテ或ハ何港何港間
用方	郵船旅客船石炭船挽船港內使用船等
一晝夜費炭	何百何十斤
石炭貯量	何万何千何斤
一晝夜油費	何升
一晝夜脂費	何斤
荷積機械之數及力	何個 一個何噸
蒸溜水機械一晝夜蒸溜量	何噸
廻轉手定員	何人
機關手定員	何人

水夫定員	何人
自餘乘組定員	事務掛リ何人賄夫何人等
	火夫定員 何人
	積荷ノ量 何百何十噸

○訓令甲第八號　明治十九年八月十日　郡役所

明治十七年(一月)丙第四號徵發物件表調査心得自今相廢止候條本月訓令甲第三號達諸表別紙調査方梗概ニ據リ調製スヘシ

徵發物件調査方梗概

第三號ノ一

一徵發物件表

徵發物件ニシテ表式中之レカ區畫ヲ設ケサル者即チ徵發令第十二條第九項同第十三條第一項第三項等ノ種類ハ各徵發區ニ於テ之レヲ調査シ置ク可キ者ナレハ本表中ニ揭載スルコ及ハサルモノトス

一本表ハ美濃紙ヲ用ヒ一郡毎ニ調製スヘキモノトス

第四書　戶數

毎町村民家ノ現在軒ヲ合算シ其家屋ノ全部又ハ幾部ヲ以テ官署（郵便局電信分局等）（警察署郡役所戸長役場等ノ類）若シハ學校ニ使用スルモノモ本書ニ算入スヘキモノトス

第五書　各戸坪數

民家ノ總坪數ヲ記入ス若シ其家屋ノ全部又ハ幾部ヲ官署若シハ學校ニ使用スル者モ亦算入スヘキモノトス

第八書第九書　貸庫貸廠

本書ハ貸庫ノ外自家ノ使用ニ供スルモノタリトモ暫ク空虛ト爲シ貸用スルモ支障ナキモノ又貸廠ノ外營業上他人ノ牛馬ヲ繫泊セシムルモノモ亦算入ス但貸庫貸廠共箇數ノミヲ記入スヘキモノトス

第十書　官廨

官廨ハ諸官省院廳府縣及ヒ郡役所戸長役場浦役場警察署裁判所郵便局電信局等ノ類ニシテ民家及ヒ寺院ヲ使用スルモノモ皆算入スヘキモノトス

第十一書　寺院

本書ハ內陣ヲ除キ其建坪（寺院內幾軒數アルモ之レヲ分別セス）ヲ合算記入ス若シ其寺院ノ全部若クハ幾部ヲ以テ官署又ハ學校ト爲ス者モ本書ニ記入スヘキモノトス

第十二書　學校

學校內幾軒數アルモ其建坪ヲ合算記入スヘキモノトス

第十三書　氷車場

本書ハ氷車及蒸氣精米器械ノ別ナク一日一石以上ヲ搗舂スル箇數ヲ記入スルモノトス

第十四書　病院

本書ハ箇數ノミヲ記入スヘキモノトス

職工書

本書ハ他ノ職工ヲ混入スヘカラス其順序ニ隨ヒ記入スヘキモノトス

甲號

第二畫　何驛
本畫ハ從前宿驛ノ唱呼アルニ拘ラス現今著明ノ場所ヲ記入スヘキモノトス

同　何市街
本畫ハ單ニ何々ト稱スル管內著明ナル場所ヲ記入スヘキモノトス

同　何町
本畫ハ一部落ヲナシテ何町ト名稱シ且ル場所ヲ記入スヘキモノニシテ前項市街中ノ一町名ヲ別擧スルノ謂ニアラス

右ノ外管內著明ノ場所ニアラサル物件其他ノ村落ノ畫ニ記入スヘキモノトス

第三第四第五第六第七第八第九畫　牛馬
本畫中乘馬車馬ハ主トシテ使用ニ適スルモノヲ記入スヘキモノトス其乘駄相半スルモノハ飼主ノ指定ニ任ス畊馬モ亦之ニ准ス但乘馬本分ノ

馬匹及種馬種牛ハ控除ス

第十第十一第十二第十三第十四畫　車輛
本畫ハ其物數ヲ記入スヘキモノトス

乙號

第二畫　本畫ハ陸米糯米ヲ除キ粳米ノミヲ記入スヘキモノトス

○訓令甲第十一號　明治二十年一月十三日　郡役所

徵發令第十二條第二項ノ乘馬駄馬駕馬車輪并ニ屬具ノ員數入用ノ旨其筋訓令ニ付左ノ項目ニ依リ取調左ノ書式ノ表面ヲ製シ來ル二月五日限リ差出スヘシ

但徵發令第十四條并ニ乘馬飼養令ニ據リ飼養スル馬匹ハ調書ヲ要セス

第一　馬匹（乘馬駕馬駄馬輓馬）ハ來二十年々齡五歲以上十六歲未滿ノモノニシテ第二項ヨリ第四項ニ適當ノ者ヲ合格トシ其他ノ者ヲ不合格トシ調査スヘシ

但年齡ハ生年ヲ一歲トシテ計算スヘシ

第二　乘馬ハ身幹四尺五寸(曲尺)以上ニシテ現在乘馬ニ役スルモノ又ハ曾テ乘馬ニ役セシモノヲ算入スヘシ

第三　駄馬ハ身幹四尺三寸以上ニシテ現在駄馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駄馬ニ役セシモノヲ算入スヘシ

但現在耕馬ニ役スルモノ又ハ曾テ耕馬ニ役セシ者ハ本項ノ駄馬ニ算入スヘシ

第四　駕馬ハ身幹四尺五寸以上ニシテ現在駕馭ニ役スルモノ又ハ曾テ駕馭ニ役セシ者ヲ算入スヘシ

第五　車輛ハ二輪又ハ四輪ノ人乘馬車荷馬車(馬ヲ駕シ得ルモノハ総テ含有ス)ニ限ル又器具完全ニシテ數日間ノ運轉ニ耐ユルモノヲ甲トシ材料完全ナラサルモ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ

第六　属具ハ駄鞍(附属縄共)ニ限ル又材料完全ニシテ數日間ノ使用ニ耐ユルモノヲ甲トシ材料完全ナラサルモ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査ス

ヘシ

明治何年何郡馬匹員數表

郡名	種別	合格 五歳以上十六歳未満 乘馬	駕馬	駄馬	不合格 五歳未満 乘馬	駕馬	駄馬	十六歳以上 乘馬	駕馬	駄馬	四尺三寸未満 乘馬	駕馬	駄馬
		牡											
		牝											
		牡											
		牝											
		牡											
		牝											
計													
備考													

明治何年何郡馬車員數表

種別 / 郡名	甲 人乘馬車 二輪車 一頭引	甲 人乘馬車 四輪車 二頭引	甲 荷馬車 二輪車 一頭引	甲 荷馬車 四輪車 二頭引	乙 人乘馬車 二輪車 一頭引	乙 人乘馬車 四輪車 二頭引	乙 荷馬車 二輪車 一頭引	乙 荷馬車 四輪車 二頭引	駄馬車屬具	計	備考

明治何年何郡馬車駄馬屬具員數表

種別 / 郡名	人乘馬車屬具 二輪車 一頭引	人乘馬車屬具 四輪車 二頭引	荷馬車屬具 二輪車 一頭引	荷馬車屬具 四輪車 二頭引	駄馬車屬具	計	備考
甲							
乙							
甲							
乙							
甲							
乙							

○訓令甲第十二號　明治二十年一月十四日　郡役所

本年進達スヘキ徴發物件表附錄第三號ノ一戸長役場所在地町村ノ欄内左方

ハ左ノ符號記載シ差出ス可シ

郵便局ハ　◎

電信局分ハ　□

鐵道ハ　一

郵便電信兩局合併ノ分ハ兩局ノ符號

○縣令甲第百三號　明治二十年七月三十日

今般徴發馬籍編製候條左條四歳以上十六歳未滿ノ馬匹（種馬ヲ除ク）飼養ノ者ハ別紙第一號雛形ニ據リ來ル八月十五日ノ現在ヲ以テ同月三十一日限リ所轄戸長ヘ届出スヘシ

但本文届出後四歳トナリ又ハ新タニ買收セシモノ幷ニ異動ヲ生シタル時ハ第一二號書式ニ據リ届書二通ヲ製シ七日以内ニ郡長戸長ヘ届出ヘシ

第一號雛形

馬匹（買收）飼養御届

産地名（又ハ産地不詳）	牝馬（又ハ牡馬）
役種	（乘馬）（駄馬）（駕馬）（耕馬）疋馬ノ駕馬駄馬ノ耕馬ヲ兼ル如キハ（乘馬兼駕馬）（駄馬兼耕馬）ト記スヘシ
身幹	何尺何寸
体格	並（肥）（瘠）
毛色	（青毛）（月毛）（栗毛）（何々）
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

右私義（飼養罷在）（或ハ飼養罷在候處本月四歳ト相成）（或ハ本年何月日何府縣郡町村何某ヨリ買收飼養仕）候條此段及御屆候也

何郡町（村）番地族職業

年月日　何　某　印

何郡町村外何ケ村戸長何某殿

新タニ買收シ又ハ四歳トナリ屆出ツルヰ一通ハ郡長宛

第二號雛形

馬匹異動御屆

産地名（又ハ不詳）

青毛（月毛）何々牝馬（又ハ牡馬）

何年月生

右私飼養ノ馬（駄駕）（耕）馬ニ有之候處（今般何府縣何郡區町村何某へ賣渡）（或ハ自今何馬ニ使役變換）（又ハ本年何月日斃）候條此段及御屆候也

何郡町（村）番地族職業

何　某　印

年月日

何郡（長）（何町村外何ケ村戸長）何某殿

○訓令甲第二百六十二號　明治二十年七月三十日　郡役所　戸長役場

徴發馬籍編製及異動取扱手續左ノ通相定ム

徴發馬籍編製及異動取扱手續

第一條　徴發馬籍ハ郡役所及戸長役場ニ備置キ徴用ノ便ニ供スヘキモノトス

第二條　徴發馬籍ハ別紙雛形ニ據リ四歳以上十六歳未滿ノ馬匹ニ就キ編製スルモノトス

第三條　戸長ハ馬匹飼養主ノ屆書ニ據リ前條馬籍ヲ一役場ニ郡長ハ一郡毎ニ牝牡各冊ニ編製シ乘馬駄馬駕馬耕馬等ノ種類ヲ分ツヘシ

但乘馬ノ駕馬駄馬ノ耕馬ヲ兼ヌルノ類ハ其重ナル部ニ登記シ尚役種ノ區畫ニ乘馬兼何々ト記スヘシ

第四條　戶長ハ前條馬籍ヲ本年九月十日限リ各二冊ヲ編製シ各一冊ヲ役場原簿トシ他ノ一冊ヲ郡長ニ差出シ郡長ハ同月三十日限リ編製スヘシ

第五條　馬匹ノ異動及ヒ新タニ買收シ又ハ四歲トナリ届出タルトキ戶長ハ其都度郡長ニ差出スヘシ

第六條　郡長戶長ハ前條届書ヲ領收シタルトキハ直ナニ原書ニ朱書訂正シ主任認印ヲ捺スヘシ

但同町村內ノ賣買ニ係ル異動ハ原書朱書訂正シ他ヨリ買收シ又ハ四歲トナリ届出タルモノ、如キハ新タニ一紙ヲ挿入記載スヘシ

微發馬籍雛形　料紙美濃鄽紙

飼養主	郡町村番地族職業何某
産地名（又ハ産地不詳）	
牝馬（又ハ牡馬）	
年月生	

役種	乘馬（駄馬）（駕馬）（耕馬）	郡役所
身幹	何尺何寸	
体格	並（肥）（瘠）	
毛色	（青毛）（月毛）（栗毛）（何々）	
異動ノ事故	何年月日（何年月日前（後）足負傷使役ヲ幼ノ又ハ何年月日何府縣郡町（村）何某ヘ賣渡）	

○訓令甲第二號　明治廿一年一月十二日

客年（一月）訓令甲第十一號ニ基キ徵發令第十二條第二項ノ馬匹車輛幷ニ屬具等員數取調差出タル諸表中員數ノ增減ハ本年ヨリ毎年二月十五日限リ取調增減表ヲ以テ申出可シ

但車輛ニ關スル增減ハ別ニ取調ヲ要セス

○訓令甲第六十七號　明治廿一年三月卅一日　郡役所

明治二十年（一月）訓令甲第十二號ヲ以テ同年進達ノ物件表ヘ符號記載方相達置候處右ハ來ル二十二年後毎年同樣符號ヲ記シ差出ス可シ

○訓令甲第十號　明治二十二年一月廿六日　郡役所

客年(一月)訓令甲第二號ヲ以テ馬匹幷ニ属具員數增減調差出方相達置候處本年ヨリハ其增減ヲ加除シ左ノ雛形ニ據リ現在數取調毎年二月十日限リ差出ス可シ

明治何年馬匹幷駄馬属具員數調

	五歳以上十六歳未滿				駄馬	
	乘馬	駕馬	駄馬		属具	
	牡				甲	
	牝				乙	
	牡				甲	
	牝				乙	
備考						

一乘馬ハ身幹四尺五寸(曲尺)以上ニシテ現在乘馬ニ役スルモノ又ハ曾テ乘馬ニ役セシモノヲ算入スヘシ

一駄馬ハ身幹四尺三寸以上ニシテ現在駄馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駄馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ

但現在耕馬ニ役スルモノ又ハ曾テ耕馬ニ役セシ者ハ本項ノ駄馬ニ算入スヘシ

一駕馬ハ身幹四尺五寸以上ニシテ現在駕馭ニ役スルモノ又ハ曾テ駕馭ニ役セシ者ヲ算入ス可シ

一属具ハ輓駄鞍(附属繩共)ニ限ル又其材料完全ニシテ數日間ノ使用ニ耐ユルモノヲ甲トシ材料完全ナラサルモ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ

○戊第八十號　明治十八年十月七日　郡役所　戸長役場

陸軍省達甲第四十一號同第四十二號ノ通達有之候條此旨相達條事

（四十一號ハ不必用ニ付省ク）

明治十八年九月廿六日

陸軍省達甲第四十二號

正當ノ故ナク徴集ニ應セス若シクハ徴集ニ洩レ年齡三十二歳ヲ超過シ發見ノ者ハ其時々當省ヘ經伺ノ上處分致來候處自今年齡四十歳迄ハ經伺ヲ要セス徴集スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○乙第二十一號　明治十九年五月五日

豫備兵後備兵等鄉里ニ在ル者點呼ノ節ハ自今主任郡書記及ヒ戸長臨場シ諸事注意スヘシ

○丙第四十七號　明治十九年六月三日　郡役所

陸軍教導團生徒志願者取扱手續別冊之通同團ヨリ送付ニ付右ニ照準取扱フ可シ

右相達候事

陸軍教導團生徒志願者取扱手續

第一條　生徒志願者連名簿ヲ教導團ニ送附スルハ陸軍大臣ヨリ定メラレタル期日迄ニ着團スルヿ尤モ必要ナリ然ラサレハ檢查官出發ニ際シ巡廻日等其準備上數多ノ支障ヲ生スルヿアリ

但該名簿發送後止ムヲ得サル追願者アルトキハ特ニ其連名簿二通ヲ製シ一ハ直ニ教導團ニ送附シ一ハ檢查官到着ノ上入學願書ト共ニ該官ニ交附アル可シ

第二條　檢查場ハ府縣廳ニ於テ豫メ適宜ノ場所ヲ撰定シ廳下ニ在テハ府縣會議事堂ノ類其他ニ在テハ郡區會議事堂又ハ郡衙或ハ官立學校等ノ如キ成ル可シ官設ノ家屋ヲ以テスルヲ良トス（机腰掛等ノ使用具ニ便宜ヲ得ル丁多カル可シ）然レトモ適當ノ場所之レナク止ムヲ得サルトキハ社寺又ハ人民共有ノ家屋等ヲ借受ケルモ妨ケナシ

第三條　各地檢查場開設ノ日割ハ志願者心得第九條ニ依リ豫メ派出檢查官ヨリ通知スルヲ以テ該官第一ノ檢查地ニ到着スルノ日ヲ期シ其府縣ヨリ

ハ成ル可ク主任官ヲ派出シ撿査ノ準備及ヒ彼是ノ便宜ヲ謀ルヘキハ受撿者ニ於テモ亦著シキ便宜ヲ得ルヿアルヘシ

第四條　撿査場ニ撿丁ヲ徴集スルハ志願者連名簿ニ區分シタル如ク即チ豫メ甲ハ第一撿査場ニ集メ乙ハ第二撿査場ニ出頭セシムル等ノ準備ヲ爲シ撿査官ヨリ撿査時日ノ通報ヲ得ルヤ其府縣ニ於テハ直ニ之ヲ本人ニ通達シ力メテ延着者等勿カラシムルヲ要ス若シ其際甲撿査場ニ出ツ可キ者謂レナクシテ乙撿査場ニ臨ム等ノヿアルヒハ頗ル手數ヲ煩シノミナラス時トシテハ撿査ヲ行フ能ハサルヿアル可シ

第五條　撿丁ヲ撿査場ニ徴集シ試驗ヲ行フヘキ人員ハ一日凡ソ三十名ヲ以テ豫定トス故ニ其部內受撿者ノ多數ナルヒハ同日ニ殘ラス召集スヘカラス即チ初日何十名ト遂次ニ出頭セシメ而シテ其撿丁ヲ召集スルヿニ成ル可ク最遠ノ者ヲ初日ニ出頭セシムルヲ以テ然ルヒハ止ムヲ得サル事故ニ依リ延着ノ者アルニ際シ次日ノ撿査ニ讓ルノ便宜ヲ得ヘシ

但一撿査場ニ徴集スヘキ撿丁三十五名以內ニ止ルヒハ一日ヲ以テ之ヲ施行スルヿアル可シ

第六條　撿丁ノ學科試驗ヲ受ケタル者合格セシヒハ教導團條例第三章第六條ニ掲ケル如ク各派出撿査官復命ノ上教導團長ハ全國合格者ノ優劣ヲ比較シ之ヲ撰拔シテ順次召募員ニ充ツルノ成規ナルヲ以テ假令合格シタル者ト雖ヒ悉ク採用スヘキ限ニ非ス故ニ其採否ヲ決シ出團ヲ命スルノ後ニ非ラサレハ令格者タルモ妄リニ出發セシメサルヲ要シ若シ其達ヲ待スシテ出團スル者アルヒハ彼ノ優劣比較ノ上不採用タルノ不幸ニ遇ハヽ單リ本人ヲシテ失望セシムルノ而已ナラス無益ノ手數ヲ煩ハスコト許多ナルヘシ

第七條　出團ヲ命スル合格者ノ旅費ハ陸路一日十里詰ノ割合ヲ以ヲ支給スルト雖ヒ出團通知ノ日數ハ時トシテ一日十里詰ノ成規日數ニ仍ルヿ能ハサルヲ以テ濱船ノ便アル者ハ成ルヘク期日ニ着團セシムルヲ要ス然ラサ

レハ生徒ニ於テモ入園後修業上ニ大ナル不幸ヲ見ルヲアル可シ

第八條　出園旅費支給濟ノ結算書類及ヒ殘金等從來各府縣ヨリ回送到達スルモノ往々時日遷延或ハ年度ニ跨リ甚シキ支障ヲ來スヲアリ是等ハ成ル可ク迅速ニ送附アランコトヲ要ス

第九條　從來ノ經驗ニ依レハ志願者ノ檢查場ニ出頭スルニ里程証書及ヒ印章等ヲ持參セサルアリ又ハ檢查ニ望ミ筆墨ヲ所持セス或ハ之レニ木筆ヲ代用セントスル者往々之レアリ右ハ志願者心得ニモ掲ケテ明文アレハ郡區戸長ニ於テモ尚一層ノ注意ヲ加ヘ必ス之レヲ持參セシムヘシ

但筆墨ノ外各自下書ニ要スル白紙罫紙等ハ決シテ携帶セシメサルヲ要ス若シ之ニ背ク者アレハ直ニ檢查場ヲ退去セシムルヲアル可シ

第十條　近來志願者ノ內著シキ定尺未滿ノ者又ハ吃辨或ハ手足ノ一指ヲ欠キタル者若シクハ讀書作文數學等ノ教育ヲ受サル者等ノ如キ顯然不合格ノ見易キモノニシテ出場スルヲアリ是等ハ檢查官ノ判別ヲ俟タスシテ素ヨリ明瞭ナルヘシト雖モ斯ノ如キ檢丁ヲ出場セシムルハ單リ檢查官ノ手數ヲ煩スノミナラス本人モ貴重ノ日子ヲ費シ彼我ノ不便モ亦甚シキヲ以テ出願ノ際主任者ニ於テ一層ノ注意ヲ加フレハ斯ノ如キ不都合ヲ見ルヲ勿ルヘシ

第十一條　志願者ノ入學願書中族籍及ヒ氏名ノ文字ヲ誤リ或ハ故意ニ氏名ノ文字ヲ變換スル者アルカ如シ假令ハ何治郎ノ治ヲ次トシ或ハ市ヲ一トスルノ類往々之アリ而シテ其入學願書ニ記スル處ト檢查ノ際自記スル者ト着園届ニ認ムル處ト彼是相違シ不都合モ亦少カラス然ルニ其入學願書ノ如キハ最初本人出願ノ際郡區戸長ニ於テ戸籍簿ニ照シ相違ナキヲ証明シタル後其管轉廳ニ差出シタル者ヲ確實ト爲シ終始變換スルヲ無シト雖モ他日何等ノ差支ヲ生スルヤモ計リ難シ故ニ其願書等ハ書式ニ違ハサル樣注意スヘキハ勿論右等ノ不都合ナカラシムル爲メ尙周密ニ調查スルヲ要ス

第十二條　志願者中病氣其他止ムヲ得サル事故等ニ依リ志願取消ヲ願出ル者アルトキハ其願書ニ病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ添附シ其他ハ事由ヲ詳記シテ身元引受人連署ノ上出願セシムルヲ要ス然ラサレハ往々一片ノ紙面ニ其事由ヲ詳記セスシテ彼是ノ手數ヲ煩ハスヿ多カルヘシ

○甲第十一號　明治十九年六月四日

豫備後備兵ノ點呼召集ハ本籍地方ニ於テ施行可相成筈ノ處學術修業若クハ商業等ノ爲メ他府縣ヘ寄留ノ者ハ本人ノ願ニ由リ寄留地ノ點呼召集ニ應スルヿヲ得可シ

○甲第十四號　明治十九年六月十七日

徴兵常備現役中傷痍疾病ニ罹リ一時服務ニ堪ヘサルトモ尚ホ後來全癒服務ニ堪ユルノ見込アル者ハ生兵卒業後ナレハ鄉里ニ歸休セシメ又卒業以前ナレハ第一豫備徴員ニ編入セラル

但到底服務ニ堪ヘサル者ハ除役相成可シ

○甲第十六號　明治十九年六月廿二日

今般陸軍看馬卒現在員相應候ニ付現役中ノ者及ヒ補充員第一豫備徴員共總テ輜重輸卒ニ組替其內昨十八年現役ニ徴集ノ者ハ直ニ豫備役ニ編入シ本年四月廿日ヨリ起算シ滿六ケ年間該役ニ服セシメラル

○縣令甲第四號　明治十九年九月四日

現役輜重輸卒ノ儀期日即四月廿日後ハ結婚不相成儀ニ候處自今諸兵同樣入營以前ハ結婚スルヿヲ得

○訓令甲第十九號　明治二十年一月十八日　郡役所

明治十九年(十月)陸軍省令甲第卅九號陸軍召集條例第十四樣式召集旅費概算表ハ現員ノ十分ノ三ヲ加ヘ調査ス可シ

但本文十分ノ三ニ當ル人員ノ旅費金ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以テ算ス可シ

○訓令甲第五十七號　明治二十年二月十七日　郡役所　戸長役場

陸軍召集條例第百四十八條ニ據リ郡役所戸長役場ニ於テ豫備後備軍艦員兵員名簿ヲ調製スヘキ處右ハ同條例第百四十一條第百四十二條ニ據リ其種類ヲ區別シ第十一條樣式其一其二ニ準據來ル三月誌日ニ調製可致尤右調製ニ就テハ郡役所ハ郡駐在所備ノ名簿ニ照合シ而シテ戸長役場ハ郡役所ニ就キ照合ノ上調製スル可シ

但本文名簿整頓ノ上ハ其旨届出ツ可シ

○縣令甲第三十七號　明治二十年二月廿七日

陸軍歸休兵幷豫備後備軍艦員兵員ニシテ他ニ寄留中充員召集若クハ演習召集ニ際スルトキハ便宜ニ依リ寄留地ヨリ直チニ其召集地又ハ近衛兵集合地ニ到ルヲ得其準則左ノ如シ

一陸軍歸休兵幷ニ豫備後備軍艦員ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應シ又ハ近衛兵集合地ニ到ラント欲スルモノハ召集ノ命令ヲ通報スヘキ者ヲ定メ後備軍司令官ニ願出許可ヲ受ク可シ

一令狀及旅費ハ其召集ノ命令ヲ通報スヘキ者ニ於テ受領シ之ヲ本人ニ送致スル可シ

一旅費額ハ本籍ヨリ召集地又ハ近衛兵集合地迄ノ計算トス

一近衛軀員兵員近衛兵集合地ヲ經ス寄留地ヨリ直ニ召集地ニ到ル者ニシテ近衛兵集合地迄ノ旅費ヲ給シタル者ノ同地ヨリ召集地迄ノ旅費ハ到着ノ上近衛ヨリ追給スヘシ

○訓令甲第七十八號　明治二十年三月二日　郡役所　戸長役場

陸軍召集條例第廿四條ニ據リ事務細則ヲ定ムル左ノ如シ

陸軍召集事務細則

第一條　條例第廿八條第二項ノ軍用旅舍ハ平時郡役所ニ於テ國縣道各宿驛ニ若干ヲ定メ其姓名等取調警察署及同分署ニ通知シ縣廳ヘ報告ス可シ

第二條　前條旅舍ヲ定メタルトキハ其土地ノ景況ニ依リ宿泊料ヲ豫約シ其料金前條報告ノ際舍主姓名ノ頭ニ記載報告ス可シ

第三條　前條旅舍ノ標旗燈ハ別ニ官ヨリ給セサルヲ以テ旅舍所有ノ國旗又ハ高張等ニ陸軍ノ徽章ヲ附着セシムル可シ

第四條　條例第廿八條第三項ノ河川（渡津橋梁アル場所）停車場等ノ要地ハ平時郡役所ニ於テ豫メ指定シ之ヲ警察署及同分署ニ通知スヘシ

第五條　條例第廿八條第四項ノ失踪逃亡及違令者等有之節ハ郡役所又ハ戸長役場ニ於テ直ヲニ警察署及同分者ニ通知スヘシ

第六條　條例第三十條ニ據リ郡役所ニ於テ充員召集ヲ戸長ニ達スルノ文案ハ平時豫メ定メ置ク可シ

第七條　前條郡役所ニ於テ充員召集ヲ戸長ニ達シタルトキハ急行ヲ以テ郡書記ヲ派遣シ戸長ノ事務ヲ補助セシムル可シ

第八條　條例第三十條及七第卅一條ノ召集令狀ヲ各自ニ配達シタルトキハ受領証ヲ徵スヘシ其料紙ハ豫テ人員ニ應シ調製シ置ク可シ

但本文令狀各自ニ配達スルヲ其配達人發着ノ時刻ヲ取調置ク可シ

第九條　條例第卅一條ノ令條各自ニ配達ノ場合ハ尤迅速ヲ要スルヲ以テ戸長役場吏員等ヲシテ傳達セシムルモ妨ナシ

第十條　條例第卅二條ニ據リ軀員兵員ヘ旅費支給スルノ順序ハ平時戸長役場ニ於テ定メ置ク可シ

第十一條　條例第四十五條第六十一條第七十七條第九十一條ニ據リ郡駐在官ヘ届出ノ際ハ戸長ニ於テ奥書証印ヲ爲ス可シ

第十二條　條例第四十九條ノ警報掲示ノ場所ナキ箇所ハ平時其場所ヲ指定シ置ク可シ

但掲示場アル箇所ト雖モ其場所市街ノ偏隅ニアルトキハ更ニ公衆ノ注目スヘキ場所ヲ撰ミ掲示スヘシ

第十三條　條例第七十六條第七十七條及第九十條及第九十一條ノ近衛兵集合地參着ノ届ハ其地駐在所ニ届出シムル可シ

第十四條　條例第百卅九條ノ兵員名簿ハ郡駐在官巡回ノ都合ニ依リ最寄點

呼所ニ差サシムルコトアルヘシ

第十五條　條例第百四十九條ニ據リ郡役所戸長役場ニ於テ兵員名簿ヲ訂正シタルトキハ主任ニ於テ認印ヲ捺ス可シ

第十六條　條例第百五十四條但書ニ據リ戸長ニ於テ各自身上ノ異動ヲ訂正スルハ例ハ歸休兵ヨリ豫備役ニ豫備役ヨリ後備役ニ移リ又ハ所轄內轉居等ニ限リ訂正シ其他ハ郡駐在官ニ差出ス可シ

但戸長轉免等ノ場合ハ姓名ニ紙片ヲ貼付シ訂正ス可シ

○訓令甲第六十九號　明治廿一年三月卅一日　郡役所　戸長役場

明治二十年(三月)訓令甲第七十八號陸軍召集事務細則左ノ一條ヲ追加ス

第十七條　戸長ハ歸休兵幷ニ豫備廳後備軍軀員兵員ナシテ各門戸ニ左ノ標札ヲ掲ケ異動ノ都度改正セシムヘシ

雛形木札(縱凡七寸　橫凡三寸)

明治二十年十月訓令甲第三百九十七號ニテ朱書ノ通改正セラル

豫備後備軍)軀員

官(何兵何等卒)姓名

○訓甲第百六十三號　明治二十年四月廿六日　郡役所　戸長役場

陸軍歸休兵幷ニ豫備後備軍軀員兵員臨時召集旅費金支出スヘキ金庫區域後記ノ通改正セラル

△印ハ朱ナリ

國名	郡名	金庫名
信夫	伊達	福島國庫金出納所
伊達	安達	桑折出納支所
安達	同	二本松出納支所
岩瀨	△郡山同	須賀川國庫金出納支所
岩代	安積	郡山出納所

	北會津		若松國庫金出納所
	南會津	△郡山同	田島出納支所
	大沼	若松同	高田出納支所
	河沼	同	坂下出納支所
	耶麻	同	喜多方出納支所
	宇多行方	福島國庫金出納所	中村出納支所
	標葉楢葉	三春同	富岡出納支所
	田村		三春國庫金出納所
磐城	石川	△郡山同	石川出納支所
	西白河	同	白河出納支所
	東白川	同	棚倉出納支所
	菊多 磐前 磐城	三春同	平出納支所

○訓令甲第百四十八號　明治二十年四月二十日　郡役所　戸長役場

陸軍召集條例ニ據リ仙臺鎭臺ニ於テ規定セシ事務細則左ノ如シ

召集條例中鎭臺規定事務細則

陸軍召集條例

明治二十年五月訓令甲第百十六號ニテ改正追加セラル

第十二條　近衛後備軍召集ハ近衛充員召集ニ次キ云々トアレ𪜈本年度（自二至二十一年五月一日十二年四月卅日）ハ騎兵砲兵ニ限リ充員召集ノ𪜈共ニ召集ス其他ハ原籍地方鎭臺ノ後備軍諸隊ニ編成スルモノトス

第十九條　第二項ノ近衛兵ヲシテ鎭臺ニ合シ演習召集スル𪜈ハ各自召集場所ハ臨時之レヲ定ムルモノトス

第廿二條　ノ點呼時期ハ毎年概ネ三月ヨリ五月間ニ於テ施行スルヲ定例トス

第廿三條　兵員召集ノ里程ハ片道凡ソ六里ヲ最上限トス

第廿八條　第一項ノ合場ニ於テ巡査ニ召集者ノ人名ヲ知ラシムル爲ニ要ス

ル名簿ヲ平時駐在所ニ各一部宛調製シ置キ請求ニ應シテ其名簿ヲ貸與スルモノトス

但細務ノ要目第廿九條但書ノ巡査分擔者ニ區分シテ貸與スルモノナルヲ以テ郡區駐在所ニ在テハ各戸長役場包轄毎ニ一簿ニ編製シ置クヘシ郡區役所戸長役場ニ於テモ本文ニ準シ調製シ置クヲ要ス

同條　細務ノ要目第四項ニ掲クル枝道ニ在テハ戸長ニ就キ其宿舍ヲ請求セシムル云々ハ各自ニ見易キ樣適宜標旗標燈ヲ掲クルヲ良トス又其枝道ノ往還ヨリ離隔セシ戸長役場ノ如キハ召集下令ニ際シ一時往還沿道ニ出張所ヲ設ケ召集者各自ノ便宜ヲ計リ又ハ旅舍ヲ豫メ規約シ置ク等平時夫々計畫シ置クヲ要ス

第廿九條　細務ノ要目第一項ノ但書巡査分擔ノ區域ヲ定ムルハ戸長役場包轄ノ町村ヲ分割セサルヲ要ス

第三十條　郡區長ハ前條郡區駐在官ヨリ送附シ來リタル令狀ヲ各自ニ附與

スルニ方リ左記雛形ノ受領証ヲ添ヘ捺印セシメ後証ト爲スヲ以テ平時豫メ人員ニ應シ調製シ置クヲ要ス

料紙雛形

「凡三寸」

召集地	受領証	時	若時
仙臺川内練兵場	第「一(二)」召集令狀　「一」 右正ニ受領候也 年　月　日 「豫備役軀員」　「官姓名印」 「兵員ハ」 「豫備役兵種」 「何年第何番」　「姓名印」	「午前何時何十分」 「午後何時何十分」	「午前何時何十分」 「午後何時何十分」

「凡四寸」

「」印ハ朱ナリ

仙臺ニ召集スルモノヽ一例ヲ示ス他ハ總テ第卅二條ニ詳ナリ

第卅一條　戸長亦前條ノ受領證ヲ各自ノ令狀ニ貼付シ置キ第三十條ノ達ニ

從ヒ各自ヘ令狀配達ノ日月日幷ニ發時ヲ記注シ本人令狀受領ノ時着時ヲ記入シ捺印セシメ以テ後證トナスヲ要ス

同條　ノ場合ニ於テ豫テ本人寄留先キヨリ召集ニ應センコヲ出願既ニ許可濟ノ者ハ旅費令狀ハ通報人ヘ相渡同人ヨリ直ヲニ本人寄留地ヘ送附シ速カニ出發スヘキ旨通報セシムヘシ

但本文ノ旅費額ハ本籍ヨリ召集地（近衛兵ハ集合地）迄ヲ計算シ支給スルモノトス

第卅二條　各自參着ノ地ハ左ノ如シ

歩兵第四聯隊

歩兵第十七聯隊

砲兵第二聯隊

工兵第一中隊

右各隊ヘ召集ノ者ハ仙臺川内練兵場

歩兵第十六聯隊

右ハ北浦原郡新發田練兵場

歩兵第五聯隊

右ハ青森歩兵第五聯隊營門前

近衛各兵及ヒ輜卒

右第三師管各縣居住ノ者ハ福島縣西白河郡白河町高等小學校

第四師管各縣居住ノ者ハ仙臺川内練兵場

輜重兵幷ニ雜卒

右參着地ハ毎年臨機規定ス

同條　細務ノ要目第一項戶長ハ平時各自參着地ノ里程ニ應シ旅費ヲ區別シ人員ニ依リ紙袋ヲ調製シ金員及姓名ヲ記入シ置クヲ要ス

同條　細務ノ要目第三項途中疾病者ノ診斷書又川支其他ノ事故ニテ滯留セサルヲ得サル者在ルトキハ左ノ雛形ニ據リ該地ノ戶長證認書ヲ附スヘシ

但滯在ノ爲メ旅費ノ欠乏ヲ訴フルトキハ其地ノ戸長等ニ於テ日數ニ應シ一時滯在日當ヲ支給シ召集ニ差支サル樣取計然シテ右繰換金請求方ハ之レニ係ル書類ヲ添ヘ郡區長ヲ經テ地方廳ヨリ近衛或ハ鎭臺監督部ヘ回送スルモノトス

本年度ニ限リ後備軍軀員兵員中騎兵砲兵悉皆輜重兵若干名ヲ充員召集ノ上共ニ仙臺ヘ召集ス

雛形

證認書

何　ノ　某

右何月何日ヨリ何症ニ罹リ醫師何ノ某診斷書ノ通ニ付何日ヨリ何日迄何日間滯留候儀相違無之候也

年月日

何村戸長　何　ノ　某　印

右何月何日充員召集（演習召集）ノ途中何地何川出水橋梁流失（積雪）（何々）ニ付何日間滯留候儀相違無之候也

年月日

何村戸長　何　ノ　某

第卅四條　福島縣ハ本年度充員召集ニ在テハ歩兵ノ内西白河耶麻大沼北會津南會津河沼東白川岩瀨ノ八郡及田村郡ノ上等兵ハ歩兵第十六聯隊ヘ召集スルニ依リ北會津駐在官ヲシテ新發田ニ派遣シ其事務ヲ取扱ハシム

新潟縣ハ砲工輜重幷ニ諭卒若干名仙臺ニ召集スルヲ以テ北蒲原郡駐在官ヲシテ仙臺ニ派遣シ其事務ヲ取扱シムヘシ故ニ該駐在官ノ包轄人員ハ駐在書記ヲシテ代理セシムヘシ

第四師管各縣宮城縣ヲ除クハ砲工輜重兵或ハ輸卒召集ノ爲メ參着地各二ケ所ニ渉ルヲ以テ每各縣駐在書記或ハ郡區駐在官ノ內一名ヲ仙臺ニ派遣シ事務ヲ取扱シムヘシ故ニ後備軍司令官ハ豫テ派遣スヘキ者ニ其旨ヲ達シ置キ其報告ヲ致スヘシ

第卅八條　鎮臺營所後備軍司令官幷ニ分營在駐地縣駐在官ハ豫備役兵參着シタル者ヲ其近傍適宜ノ場所ニ兵種ヲ區別シ充員名簿ノ順序ニ整列セシメ各隊充足要員票ニ照シ概ネ二十人ニ至ラハ晝夜ノ別ナク各隊ヨリノ受取人ニ引渡スヘシ

第四十一條　但書ノ兵役ニ堪ヘサルモノ、歸鄉旅費ハ平時鎮臺營所後備軍司令官或ハ營處司令官ニ差出之レヲ豫定シ鎮臺司令官ハ營處司令官ニ差出之レヲ監督部ニ回シ置キ充員召集發令ニ際シ同部ヨリ各後備軍司令官幷ニ分營所在地縣駐在官ニ回送ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第四十三條　但書召集令狀ヲ返附シタルモノ遂ニ解散ノ時期ニ至ルモ其事故止マサルトキハ召集令狀ハ戶長ヨリ郡區駐在官ニ返附シ同官ニ於テ之レヲ燒却スヘシ

但第四十二條軀員ノ令狀モ本文ノ例ニ據ル只本文ヨリスルヲ異リトス

第四十七條　ノ不參人名書ハ十三行罫紙ヲ用ヒ縣名住所ヲ肩書シ兵種官姓名ヲ列記スヘシ

第四十八條　前條ニ從ヒ調製スヘシ

但兵卒ハ官名ニ換ユルニ年度籤番號ヲ記スルヲ異リトス

第五十條　計算書ハ左ノ雛形ニ準據スヘシ

用紙半紙十行罫紙　雛形

明治年月歸休(豫備役)兵召集旅費明細表

主任　何縣何等屬　姓　名　職印

一金何程

內譯

住所	召集地	里程	金員	姓名
何國何郡(區)何町村	何々	何十里	何程	何某
同	同	同	同	同

此計算雛形ハ第百九條ノ例ヲ示スモノナリ

右之通相違無之候也

明治年月日

何縣駐在官　姓名　職印

同條　ノ原証書ハ左ノ雛形ニ依テ戸長ニ於テ平時豫メ調製シ各自ノ令狀ト共ニ格納シ置キ第卅二條ノ旅費支給ノ時本人ニ捺印セシメ以テ本條ノ材料ニ充ツルヲ要ス

用紙半紙罫紙　雛形ヽ　仙臺參着者ニ示ス一例外之レニ準ス

証

一金何程

但鄉里ヨリ仙臺ニ至ル里程何里何十丁召集旅費額

右正ニ受領候也

年月日

何縣何郡(區)町村(町)住

豫備役(後備軍)軀員　官　姓名　印

此証書雛形ハ何レノ召集ヲ問ハス旅費ヲ給スルモノニ適用ス

兵員ハ

歸休(豫備)(後備)兵役何兵(卒)

何年第何番　姓名　印

第五十三條　各自參着ノ地ハ左ノ如シ

第三師管各縣居住ノ各兵科軀員兵員ハ總テ仙臺川內練兵場

第四師管各縣住居ノ歩兵科軀員及ヒ兵員ハ青森砲工兵科軀員兵員ハ仙臺川內練兵場

但兩師管共騎兵輜重兵科軀員兵員及ヒ輸卒ハ臨機之ヲ規定ス

第五十七條　ノ各自姓名牌ハ平時豫メ後備司令部ニ於テ調製シ置キ其際各部各隊長ニ送附スヘキモノトス

第六十三條　軀員兵員集令狀ニ記載スル參集期日軀員ハ郡區駐在官兵員ハ戸長ニ於テ發令ノトキ令狀ニ記入シ之ヲ本人ニ附與スルモノトス

但其日限ハ毎年之ヲ定メ別ニ告知ス

第六十四條　但書ニ依リ豫備役軀員ヲシテ引卒官タラシムル旨集合地所管ノ後備軍司令官ニ通報セハ該地參着ノ軀員一名若シクハ二名ヲ撰拔シ之レニ引卒官ヲ命スヘシ

第六十五條　ノ近衛豫備役軀員近衛兵集合地ニ參着シ後備軍司令官召集令狀ノ點檢畢レハ軀員ノ內若干名ヲ撰ミ引卒官ノ助手ヲ命シ其地ニ止メ置クヘシ其助手ノ人員ハ概ヲ兵員百名乃至百五十名ニ一名ノ割合トス

第六十六條　近衛休兵幷ニ豫備役兵員集合地ニ參着シ召集令狀ノ點檢畢レハ各兵種ヲ區ヲ兵種毎ニ服役日淺キ者ヨリ順序ニ整列ノ上戰時名簿（整列ノ順序ナルヲ要ス）ト共ニ引卒官ヘ交付スヘシ

第八十條　第四十七條鎭臺規定ノ例ニ據ルヘシ

第八十一條　第四十八條以下前條ニ同シ

第八十二條　第五十條鎭臺規定ノ雛形ニ據ルヘシ

演習召集

第九十三條　鎭臺司令官幷ニ營所司令官ノ達ニ先ヲ鎭臺營所後備軍司令官ハ其年召集スヘキ兵員ノ里程ニ應シ各縣ニ區分シ旅費ノ金額ヲ豫定シ之レヲ（營所後備軍司令官ハ營所司令官ヲ經テ）鎭臺ニ出シ以テ監督部ヨリ各縣ニ送附ヲナスヘシ

但本文ノ金員ヲ地方廳ニ於テ各郡區ニ配當スルノ用ニ供スル爲メ縣駐在官ハ各郡區包轄人員ノ里程ニ依リ其金額ヲ豫定シ地方廳ニ通知スヘシ

第九十五條　ノ達以前ニ於テ鎭臺營所後備軍司令官ハ其年召集スヘキ歸休兵及ヒ豫備役兵員ノ多寡ヲ計リ豫メ縣駐在官ニ達スヘシ

第九十六條　乃至百八條ノ演習召集事務ニ係ル小則ハ其時々之レヲ定ム

第百十二條　各部各隊長ハ召集中ノ欠勤罰科等ヲ召集人名書ニ記シ左ノ雛形ニ準シ別表ニ製シ本名簿ト共ニ交付スヘシ

用紙半紙竪紙

召集兵病罰欠勤表　　歩(砲)(工)(輜重)兵第何聯隊

縣名	年度 籤番號	事故	日數	姓名
何縣	何年 第何番	一(二)(三)等症	自何月何日 至何月何日	何ノ某
何縣	何年 第何番	何々ノ科ニ依リ輕重 營倉(苦役)何日間	自何月何日 至何月何日	何ノ某

一人ニテ病氣犯罪ト兩事ニ係ルモノハ同人ト次畫ニ併記シ又事故數度アルモ病氣(犯罪)ト其區畫ヲ異ニシ各一區畫中ニ記入スヘキモノトス

第百二十九條　點呼ノ期日ハ細則中第二十二條ノ時期内ニ於テ鎮臺司令官之レヲ定ム

但點呼ノ施行ニ係ル小則ハ豫メ鎮臺營所後備軍司令官ニ於テ規定シ鎮臺司令官ノ許可ヲ得テ施行スヘシ

召集準備

第百四十八條　細務ノ要目但書ニ方ル第二充員召集人員ヲ定ムルトキハ各隊充員所要人員表ニ據リ充員名簿中ヘ平時其區域ヲ定メ置クヘシ

但鎮臺營所後備軍司令官及ヒ分營所在地縣駐在官ハ本條ノ召集區域ヲ定メ之レヲ縣駐在官ニ達シ同官ハ郡駐在官ニ達スヘシ然シテ郡區駐在官ハ其區域ニ依リ各郡區役所戸長役場ニ備アル充員名簿中其人員ヲ限リ之レヲ通知シ置キ發令ノトキ混淆セサル樣最モ注意ヲ加フヘシ

第百五十五條　各隊充員所要人員表ハ左ノ雛形ニ據ルヘシ

雛形

明治何年四月廿日(十一月廿日)現員　充員所要人員表　一月廿五日(八月廿五日)調

兵種隊號	種類	戰時定員	五月一日 十二月一日 現在人員	戰列隊ニ加フヘカラサル者 第二期ノ教育ヲ卒ラサル者	病氣	犯罪	逃亡	戰列隊ニ加フヘカラサル見認ノ者	差引 現在人員	差引充員 所要人員
上等兵										

	銃卒				
		喇叭卒			
計					
備考					

他兵モ之レニ準ス

第百五十七條　鎮臺營所後備軍司令官ハ毎年五月一日十二月一日ニ現在ス
ヘキ豫備後備軍諸兵ノ人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分
チ一月廿五日迄ニ之レヲ鎮臺司令官（營所後備軍司令官ハ營所司令官ヲ經テ）ニ報告スヘシ
但軀員ハ召集條例第十一樣式其一ノ雛形ニ據リ舊職名ト任官月日ノ區
書ヲ增加スヘシ（修）

第百五十九條　ノ豫備後備兵不應徵員見込ノ概算數ハ百分ノ十トス
但現役兵ハ百分ノ六後備後備役兵ハ百分ノ十六ヲシテ不應徵員概算數ト見
込ミ調査スヘキモノトス

第百六十條　鎮臺後備軍司令官ノ近衛副官ニ通知スヘキ人員表ハ左ノ雛形
ニ據ルヘシ

明治何年
何月何日　近衛皈休兵及豫備後備役後備役兵豫算人員表　第二軍管

兵種	師管	第二	第四	計
歩兵	上等兵卒			
	銃卒			
	喇叭卒			
	計			
騎兵	上等兵			
	騎卒			
	喇叭卒			
	計			
砲兵	上等兵			
	砲卒			
	喇叭卒			
	計			
工兵	上等兵			
	工卒			
	喇叭卒			

雜卒						職工		總計
計	看護卒	組長	輜重輸卒 入營	輜重輸卒 未入營	計	鞍工	計	

備考

一本表人員中下士適任證書所持ノ者及擔架術卒業ノ者左ノ通

一下士適任證書所持者（第三師管 第四師管） 歩兵上等兵 騎兵上等兵 若干 若干

一擔架術卒業者（第三師管 第四師管） 歩兵上等兵 砲兵上等兵 若干 若干

一仮休兵中褒賞仮休ノ者ハ朱書スヘシ

第百六十一條　第二項但書ニ當ル人員表雛形左ノ通リ改ム

第百六十二條　鎭臺各兵ノ召集スヘキ場所ハ細則第三十二條掲示ノ通

明治何年何月何日　近衛入營延期補充員第一豫備徵員豫算人員表　第二軍管

	入營延期ノ者	補充員	第三師管 第一豫備徵員 編入年紀 廿一年						第四師管							
歩兵																
騎兵																
砲兵																
工兵																
看護卒																
鞍工																
計																

合計

備考

○訓令甲第百六十八號　明治二十年四月三十日　郡役所　戸長役場

徴兵令第十七條第三項第四項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ニシテ徴集猶豫ニ属シタルモノ常備年期間ニ異動ヲ生シタルトキ取扱方左ノ通リ達セラル

陸軍省訓令甲第三號

徴兵令第十七條第三項第四項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ニシテ徴集猶豫ニ属シ常備年期間ニ戸主ノ死亡跡若クハ退隠跡ヲ繼キ戸主トナル者ハ同令第三十六條ニ掲クル異動ノ外トシ取扱フヘシ

但舊徴兵令第二十八條第二項第三項第四項第五項及第二十九條第一項ニ當ル嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ニシテ免役ニ属シ常備年期間ニ戸主ノ死亡跡ヲ繼キ又ハ年齢六十歳以上若クハ廢疾不具ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼キタ

ル者亦本文ニ同シ

○訓令甲第百九十六號　明治二十年五月廿七日　郡役所　戸長役場

徴兵令ニ據リ徴集シタル海軍現役兵ニシテ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ入營前後ノ別ナク戸主又ハ親族ノ者ヨリ屆出シメ郡長戸長奥書証印シ横須賀鎮守府ヘ差出スヘシ

○告示第百十九號　明治二十年六月十七日

明治十九年十月陸軍省令甲第三十九號陸軍召集條例中最寄警察署分署又ハ巡査派出所ノ證認ヲ受クヘキ事由ハ便宜巡査在勤所ニ於テ證認ヲ受クルヿヲ得

○訓令甲第三百九號　明治二十年十月廿八日　郡役所

陸軍召集條例第百六十九條ノ旅費概算表調製方ノ義ニ付本月二十五日陸軍省訓令第十號及第十一號ヲ以テ左ノ通達セラル

（省令十號ハ一時限ニ付省ク）

陸軍省訓令甲第十一號

陸軍召集條例第十四條式召集旅費概算表合計區畫ノ金額ハ第二充員召集ノ旅費金ヲ扣除シ記載セシムヘシ

○訓令甲第十一號　明治廿一年一月廿五日　郡役所　戸長役場

他府縣ノ者ニシテ管下寄留中陸軍現役士官候補生幷ニ陸軍幼年學校生徒志願ノモノハ履歴教育ノ事項詳細取調其本籍戸長ヘ届出シムヘシ

○訓令甲第二十四號　明治廿一年二月八日　郡役所　戸長役場

陸軍歸休兵幷ニ豫備役後備軍軀員兵員ニシテ定時演習召集ニ際シ父母ノ重病或ハ死亡等ノ爲メ召集ノ延期ヲ請フモノハ二周日以内允許セラルヽヲ以テ左ノ手續ニ據リ出願セシムル可シ

一豫備役後備軍軀員ハ後備軍司令官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ

一歸休兵幷ニ豫備役後備役兵員ハ戸長ノ奥書証印ヲ以テ縣駐在官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ

一右願書ニハ診斷書又ハ証明書ヲ添付差出ス可シ

○訓令甲第二十六號　明治廿一年二月八日　郡役所

陸軍召集條例第百六十五條ニ據リ郡役所ヨリ金庫國庫金出納本支所ヘ送付ノ召集旅費概算表欄外ニ五月十日調ハ第一次十一月十日調ハ第二次ノ三字朱書スヘキ旨陸軍大臣ヨリ訓令セラル

但客年十一月十日調ノ分ハ追報ス可シ

○訓令甲第八十七號　明治廿一年四月廿一日

徴兵令ニ依リ徴集シタル海軍現役兵滿期歸鄉シタルトキハ其日ヨリ三日以内ニ戸長ニ届出テシメ戸長ハ之ヲ郡區長ニ届出ツヘキ旨訓令セラル

○訓令甲第百四號　明治廿一年五月五日

明治十八年(九月)戊第七十一號徴兵事務取扱手續第百九條第八項自今廢止候條郡役所ニ於テ別紙表式ニ據リ毎年三月六月九月十二月ノ四期ニ區別毎期其末月盡日ノ現在員ヲ以テ翌月十日限取調當廳ニ報告スヘシ

（別紙）

從明治廿一年一月
至同　年三月　豫備役軀員兵員現在表

種別	近衛	鎮臺	海軍	合計
騎砲工輜重看護工職				
歩騎砲工輜重看護工職				
計				
軀員				
兵員				
歩騎砲工輜重輸卒看護工職				
計				
軀員	増			
	減			
兵員	増			
	減			

從同年同月
至同年同月　後備軍軀員兵員現在表

種別	近衛	鎮臺	海軍	合計
歩騎砲工輜重輸卒看護工職				
計				
軀員				
兵員				
歩騎砲工輜重輸卒看護工職				
計				
軀員	増			
	減			
兵員	増			
	減			

何郡役所

從同年同月
至同年同月　歸休兵現在表

種別	近衛	鎮臺	海軍	合計
歩騎砲工輜重輸卒看護工職				
計				
兵員				
歩騎砲工輜重輸卒看護工職				
計				
兵員	増			
	減			

○訓令甲第百十五號

行軍演習事務手續左ノ通相定ム

明治廿一年五月十八日

行軍演習事務手續

第一條　凡行軍演習ニ關スル事務ハ諸事圓滑ナ旨トシ勉メテ軍隊ノ便益ヲ圖リ各郡區々々ノ處置ナク一徹ニ出ルヲ專要トス

第二條　凡軍人ヲ待遇スルハ苟モ虛飾ニ趨ラス專ラ誠實ナ旨トス可シ

第三條　宿驛地ノ戸長ハ行軍演習ノ際設營士官ノ便ニ供セシカ爲メ宿舍ニ充ツ可キ各戸ノ疊數及舍主ノ姓名ヲ記載シタル全驛ノ繪圖面ヲ製シ置ク

可シ

但每門口ニハ間數及疊數幷舍主ノ姓名ヲ記シタル標札ヲ掲示セシムヘシ

第四條　軍隊通行ノ際沿道住民ヲシテ便宜ノ場所ニ飲料水ヲ配當セシムヘシ

第五條　軍隊ノ宿舍ニハ可成浴湯ヲ取設ケシムヘシ

第六條　軍隊舍營及露營ノ場所ニハ便宜戶長役場吏員出張所ヲ設ケ左ニ掲クル事項ヲ取扱フ可シ

一　宿舍　倉庫　廐圈ニ關スル事

二　人夫　馬匹　車輛ニ關スル事

三　糧秣ニ關スル事

四　臨時給養品ニ關スル事

第七條　聯隊以下ノ行軍演習ニ際シテハ前條ノ手順ニ據ルヲ要セス戶長ニ於テ諸事差問ナキ樣適宜其事ヲ處辨スルヲ得

第八條　廐ハ鑛臺ノ計畫ニ在ルヲ以テ當該官ヨリ協議アル場合ヲ除クノ外掛廐等ノ準備ヲ爲ス可カラス

第九條　供合物件ハ其他現在品ヲ以テ之ニ充テ不足ノ分ハ可成近傍町村ヨリ充足スヘシト雖モ到底之ヲ得難キモノハ其旨ヲ豫メ需用者ニ通知ス可シ

第十條　賄ハ將官ヨリ以下兵卒ニ至ル迄可成平等ニシテ豫約金額ニ應シ供給セシムル可シ

第十一條　他ヨリ借入レタル夜具ノ損料等ヲ要スルトキハ賄料ノ內ヨリ塡補ス可シ

第十二條　豫約ノ物件ニシテ不用ニ歸シタルモノアル時ハ當該部隊ニ協議シ至當ノ處分ヲ爲ス可シ

第十三條　軍人ノ人氏ニ對シ若シ過激粗暴ノ擧動アルトキハ直チニ其事由ヲ

二十一年六月號外ニテ白河ト正誤ス

該隊長ニ申告ス可シ

第十四條　甲乙兩郡ニ連及スル事柄ハ緩急ニ應シ互ニ通信協議スルヲ要ス

○訓令甲第百二十六號　明治廿一年五月廿六日

今般大隊區司令部條例制定ニ付監視區長駐劄地幷ニ監視區域左之通リ定メラル

監視區長駐劄地　監視區域

福島（信夫郡　田村郡　磐城郡　安達郡　標葉郡　菊多郡　安積郡　楢葉郡　磐前郡）

白河（岩瀬郡　西白河郡　大沼郡　石川郡　北會津郡　河沼郡　東白川郡　南會津郡　耶麻郡）

大河原（字多郡　行方郡　伊達郡）

○訓令甲第百二十七號　明治廿一年五月廿六日

今般仙臺鎮臺幷後備軍司令部廢セラレ候處兼テ渡アル所ノ召集令狀ハ追テ引繼迄其儘應用ノ筈ニ付心得ヘシ

二十一年八月訓令甲第百五十八號ニテ改正セラル

○訓令甲第百三十二號　明治廿一年六月二日

本年勅令第十七號陸軍各兵科現役下士補充條例第八條ニ據リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄ノ死亡處刑若クハ失踪等ハ戸長ノ証明書癈疾不具等ハ醫師ノ診斷書ヲ其親族ヨリ本人ヘ送付セシムヘキ旨達セラル

○訓令甲第百五十三號　明治廿一年七月廿二日

志願兵現役中傷痍疾病（永久兵役ニ堪ヘサル確証アル者ヲ除ク）其他ノ事改ニ依リ三年未滿ニシテ該役ヲ免シ豫備役若クハ後備役ニ編入セサル者ハ更ニ徵兵檢査所ニ呼出シ身体檢査ヲ受ケシムヘシ

但常備年期ノ第七年檢査時限ヲ經過シタル者ハ此ノ限リニアラス

○訓令甲第百六十三號　明治廿一年八月十四日

本年（五月）陸軍省令第十四號陸軍豫備兵後備兵在鄕守則中ノ願届書ハ總テ郡役所戸長役場ヲ經由セシムヘシ

○訓令甲第百六十五號　明治廿一年八月廿四日

明治十七年陸軍省達甲第十七號陸軍下士服役規則第十四條ニ依リ現役免除ヲ願フ者ハ本年六月本縣訓令甲第百三十二號ノ手續ヲナシ本人ヨリ所管長官ニ出願セシムヘシ

○甲第三十號　明治廿二年三月九日　郡役所　戸長役場

本年陸軍省令第一號徵兵事務條例施行細則第一樣式壯丁名簿ハ別紙ノ寸法ニ據リ調製スヘシ

（別紙）

曲尺六寸五分

明治　年壯丁名簿			
住所	兵種番號	假決	
同府（縣）同郡（市）同町（村）寄留			
身分職業	氏名	誕生	妻

終決	備考	體格			
		等位	胸廓尺度	各部構造	摘要
子		身幹尺度	關節運動	視力辨色力	

○甲第三十一號　明治廿二年三月十三日　郡役所　戸長役場

本年法律第一號ヲ以テ徵兵令改正ニ付テハ舊徵兵令ニ交渉ノ件取扱方左之通定メラル